

# 有価証券報告書

事業年度 自 平成29年1月1日  
(第79期) 至 平成29年12月31日

キヤノン電子株式会社

---

# 有価証券報告書

---

- 1 本書は金融商品取引法第24条第1項に基づく有価証券報告書を、同法第27条の30の2に規定する開示用電子情報処理組織(EDINET)を使用し提出したデータに目次及び頁を付して出力・印刷したものであります。
- 2 本書には、上記の方法により提出した有価証券報告書に添付された監査報告書及び上記の有価証券報告書と併せて提出した内部統制報告書・確認書を末尾に綴じ込んでおります。

# 目 次

頁

## 第79期 有価証券報告書

【表紙】	1
第一部【企業情報】	2
第1【企業の概況】	2
1【主要な経営指標等の推移】	2
2【沿革】	4
3【事業の内容】	5
4【関係会社の状況】	7
5【従業員の状況】	8
第2【事業の状況】	9
1【業績等の概要】	9
2【生産、受注及び販売の状況】	11
3【経営方針、経営環境及び対処すべき課題等】	12
4【事業等のリスク】	13
5【経営上の重要な契約等】	14
6【研究開発活動】	15
7【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】	16
第3【設備の状況】	17
1【設備投資等の概要】	17
2【主要な設備の状況】	18
3【設備の新設、除却等の計画】	18
第4【提出会社の状況】	19
1【株式等の状況】	19
2【自己株式の取得等の状況】	22
3【配当政策】	23
4【株価の推移】	23
5【役員の状況】	24
6【コーポレート・ガバナンスの状況等】	28
第5【経理の状況】	34
1【連結財務諸表等】	35
2【財務諸表等】	65
第6【提出会社の株式事務の概要】	77
第7【提出会社の参考情報】	78
1【提出会社の親会社等の情報】	78
2【その他の参考情報】	78
第二部【提出会社の保証会社等の情報】	79

## 監査報告書

**【表紙】**

**【提出書類】** 有価証券報告書

**【根拠条文】** 金融商品取引法第24条第1項

**【提出先】** 関東財務局長

**【提出日】** 平成30年3月29日

**【事業年度】** 第79期(自 平成29年1月1日 至 平成29年12月31日)

**【会社名】** キヤノン電子株式会社

**【英訳名】** CANON ELECTRONICS INC.

**【代表者の役職氏名】** 代表取締役社長 酒 巻 久

**【本店の所在の場所】** 埼玉県秩父市下影森1248番地

**【電話番号】** 0494-23-3111

**【事務連絡者氏名】** 専務取締役 石 塚 巧

**【最寄りの連絡場所】** 東京都港区芝公園三丁目5番10号

**【電話番号】** 03-6910-4111

**【事務連絡者氏名】** 専務取締役 石 塚 巧

**【縦覧に供する場所】** キヤノン電子株式会社東京本社  
(東京都港区芝公園三丁目5番10号)  
株式会社東京証券取引所  
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

## 第一部【企業情報】

### 第1【企業の概況】

#### 1【主要な経営指標等の推移】

##### (1) 連結経営指標等

回次	第75期	第76期	第77期	第78期	第79期
決算年月	平成25年12月	平成26年12月	平成27年12月	平成28年12月	平成29年12月
売上高 (百万円)	98,016	95,482	89,373	83,290	83,769
経常利益 (百万円)	10,877	10,524	10,677	7,959	9,886
親会社株主に帰属する 当期純利益 (百万円)	7,249	7,377	6,951	5,553	7,739
包括利益 (百万円)	8,257	8,156	5,823	5,426	8,860
純資産額 (百万円)	73,953	75,996	78,539	81,515	87,985
総資産額 (百万円)	96,013	101,542	101,780	103,171	108,221
1株当たり純資産額 (円)	1,771.12	1,860.60	1,922.83	1,995.58	2,152.50
1株当たり当期純利益 (円)	174.26	178.77	170.31	136.06	189.61
潜在株式調整後 1株当たり当期純利益 (円)	—	—	—	—	—
自己資本比率 (%)	76.7	74.8	77.1	78.9	81.2
自己資本利益率 (%)	10.2	9.9	9.0	6.9	9.1
株価収益率 (倍)	11.1	10.7	11.7	13.0	13.0
営業活動による キャッシュ・フロー (百万円)	4,446	10,159	10,547	7,556	9,679
投資活動による キャッシュ・フロー (百万円)	△3,100	△4,217	△18,121	△8,065	2,895
財務活動による キャッシュ・フロー (百万円)	△2,492	△3,989	△2,450	△2,447	△2,391
現金及び現金同等物の 期末残高 (百万円)	27,326	29,476	19,189	16,040	26,134
従業員数 (名)	5,477	4,839	4,440	4,314	5,063

(注) 1. 売上高には、消費税等は含まれておりません。

2. 潜在株式調整後1株当たり当期純利益は、第75期については、希薄化効果を有している潜在株式が存在しないため記載しておりません。また、第76期、第77期、第78期及び第79期については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

## (2) 提出会社の経営指標等

回次	第75期	第76期	第77期	第78期	第79期
決算年月	平成25年12月	平成26年12月	平成27年12月	平成28年12月	平成29年12月
売上高 (百万円)	86,409	84,943	80,127	74,137	72,146
経常利益 (百万円)	11,185	10,407	10,211	7,815	9,731
当期純利益 (百万円)	7,794	6,935	6,603	5,600	7,616
資本金 (百万円)	4,969	4,969	4,969	4,969	4,969
発行済株式総数 (株)	42,206,540	42,206,540	42,206,540	42,206,540	42,206,540
純資産額 (百万円)	74,817	77,507	80,896	83,946	89,288
総資産額 (百万円)	94,915	102,276	102,839	104,138	110,476
1株当たり純資産額 (円)	1,793.09	1,898.82	1,981.93	2,056.69	2,187.61
1株当たり配当額 (内1株当たり 中間配当額) (円)	60.00 (30.00)	60.00 (30.00)	60.00 (30.00)	60.00 (30.00)	70.00 (30.00)
1株当たり当期純利益 (円)	187.38	168.06	161.79	137.22	186.60
潜在株式調整後 1株当たり当期純利益 (円)	—	—	—	—	—
自己資本比率 (%)	78.6	75.8	78.7	80.6	80.8
自己資本利益率 (%)	10.8	9.1	8.3	6.8	8.8
株価収益率 (倍)	10.3	11.3	12.4	12.8	13.2
配当性向 (%)	32.0	35.7	37.1	43.7	37.5
従業員数 (名)	1,765	1,750	1,737	1,713	1,716

(注) 1. 売上高には、消費税等は含まれておりません。

2. 潜在株式調整後1株当たり当期純利益は、第75期については、希薄化効果を有している潜在株式が存在しないため記載しておりません。また、第76期、第77期、第78期及び第79期については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

## 2【沿革】

当社は、昭和29年5月20日 株式会社秩父英工舎（昭和39年1月キャノン電子株式会社に商号変更）として設立されましたが、株式の額面金額を500円から50円に変更するため、昭和22年5月23日設立の株式会社櫻商会（昭和54年7月キャノン電子株式会社に商号変更）を形式上の存続会社とし、昭和55年1月1日を合併期日として吸収合併を行いました。

従って、以下では実質上の存続会社であるキャノン電子株式会社（被合併会社）に関する事項について記載しております。

昭和29年5月	埼玉県秩父市大字山田に資本金2,000万円をもって株式会社秩父英工舎を設立。
昭和39年1月	商号をキャノン電子株式会社に変更。
昭和39年4月	本社工場を埼玉県秩父市大字下影森に新設。
昭和43年12月	ミノン電子株式会社設立。
昭和45年7月	オータキ電子株式会社設立。
昭和45年11月	ヨリイ電子株式会社設立。
昭和47年9月	オガノ電子株式会社設立。
昭和53年12月	アムステルダム連絡事務所開設。
昭和55年1月	株式額面変更のため、キャノン電子株式会社に吸収合併される。
昭和56年8月	東京証券取引所市場第2部に上場。
昭和57年2月	埼玉県秩父市大字下影森に本社棟・開発生産技術センター新築。
昭和59年3月	美里工場開設。
昭和59年7月	株式会社シーイーパートナーズ設立。
昭和63年12月	Canon Electronics (Malaysia) Sdn. Bhd. 設立。
平成10年6月	東京証券取引所市場第1部に指定。
平成11年1月	アムステルダム連絡事務所閉鎖。
平成11年2月	赤城工場開設。
平成11年10月	ヨリイ電子株式会社清算。
平成11年12月	オータキ電子株式会社清算。
平成12年7月	株式会社シーイーパートナーズを、キャノン電子ビジネスシステムズ株式会社に商号変更。
平成13年7月	山田工場・横瀬工場を閉鎖し、影森工場を秩父工場へ名称変更。
平成14年5月	オガノ電子株式会社清算。
平成14年8月	ミノン電子株式会社清算。
平成18年12月	イーシステム株式会社（現キャノンエスキースシステム株式会社）の第三者割当増資を引き受け、連結子会社(当社持分62.0%)とする。
平成20年11月	アジアパシフィックシステム総研株式会社(現キャノン電子テクノロジー株式会社)の株式を公開買付けにより取得し、連結子会社（当社持分87.9%）とする。
平成20年11月	Canon Electronics Vietnam Co., Ltd. 設立。
平成21年12月	東京本社開設。
平成22年2月	アジアパシフィックシステム総研株式会社(現キャノン電子テクノロジー株式会社)を完全子会社とする。
平成22年5月	イーシステム株式会社（現キャノンエスキースシステム株式会社）を完全子会社とする。
平成29年7月	新世代小型ロケット開発企画株式会社設立。

### 3 【事業の内容】

当社グループは、当社と子会社10社（うち連結子会社10社）で構成されており、コンポーネント、電子情報機器等の国内外における製造及び販売を主な事業として取り組んでおります。また、当社グループはキヤノングループに属し、主として親会社であるキヤノン株式会社及びその生産子会社から部品を仕入れ、製造し、キヤノン株式会社及びその子会社へ製品の納入を行っております。当社グループの事業（製品）に係る位置付けは、次のとおりであります。

#### コンポーネント

主要な製品は、シャッターユニット、絞りユニット、レーザースキャナーユニットであります。

シャッターユニット及び絞りユニットは、当社が開発・製造・販売を行っております。主な納入先は当社グループ外の得意先及びキヤノン株式会社、キヤノン株式会社の生産子会社であります。

レーザースキャナーユニットは、キヤノン株式会社から製造を受託し、キヤノン株式会社へ納めております。

在外子会社であるCanon Electronics (Malaysia) Sdn. Bhd. は、当社より支給された部品を加工し、当社及びキヤノン株式会社の生産子会社へ製品を納めております。

在外子会社であるCanon Electronics Vietnam Co., Ltd. は主にキヤノン株式会社の生産子会社から製造を受託し、キヤノン株式会社の生産子会社へ製品を納めております。

#### 電子情報機器

主要な製品は、ドキュメントスキャナー、ハンディターミナル、レーザープリンターであります。

ドキュメントスキャナーは、当社が開発・製造・販売を行っております。主な納入先は、キヤノン株式会社の販売子会社であります。

ハンディターミナルは、当社が開発・製造・販売を行っております。主な納入先はキヤノン株式会社の販売子会社であるキヤノンマーケティングジャパン株式会社であります。

レーザープリンターは、キヤノン株式会社から製造を受託し、キヤノン株式会社へ納めております。

#### その他

主要な製品は、顧客情報管理サービス、名刺管理サービス、システム開発・保守・運用であります。

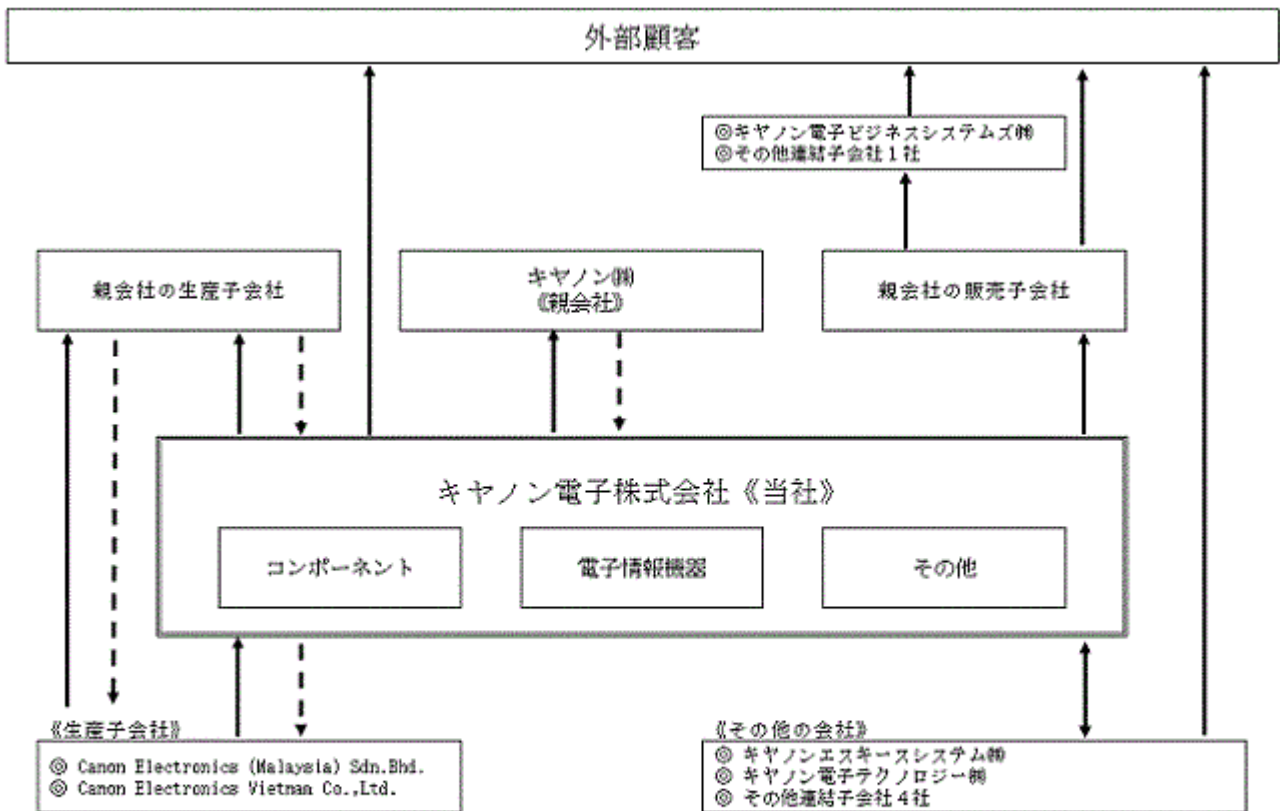
顧客情報管理サービス及び名刺管理サービスは、当社の連結子会社であるキヤノンエスキースシステム株式会社が販売を行っております。主な納入先は当社グループ外の得意先であります。

システム開発・保守・運用は、当社の連結子会社であるキヤノン電子テクノロジー株式会社が行っております。主な納入先は当社グループ外の得意先であります。

当社の連結子会社であるキヤノン電子ビジネスシステムズ株式会社は、キヤノンマーケティングジャパン株式会社より事務機製品を仕入れ、当社グループ外の得意先へ販売しております。



事業系統図は次のとおりであります。



(凡例)

- ◎ . . . 連結子会社
- . . . 製品の供給・サービスの提供
- -> . . . 部品の供給

#### 4 【関係会社の状況】

会社の名称及び住所	資本金 (または出資金)	主要な事業 の内容	議決権の 所有又は 被所有割合	関係内容
(親会社) キヤノン㈱ 東京都大田区 (注) 3	百万円 174,762	コンポーネント 電子情報機器	(被所有) 55.3%	当社製品の販売・電子部品等の購入
(連結子会社) Canon Electronics (Malaysia) Sdn. Bhd. (注) 2 Penang, Malaysia	M\$22,500千	コンポーネント	100.0%	当社製品の製造 役員の兼任 1名
Canon Electronics Vietnam Co., Ltd. (注) 2 Hung Yen Province, Vietnam	US\$54,000千	コンポーネント	100.0%	当社製品の製造 役員の兼任 2名
キヤノン電子 ビジネスシステムズ㈱ 埼玉県秩父市	百万円 10	その他	100.0%	事務用機器の購入・設備賃貸 役員の兼任 2名
キヤノン電子 テクノロジー㈱ (注) 2 東京都港区	百万円 2,400	その他	100.0%	システム開発の委託 役員の兼任 2名
キヤノン エスキースシステム㈱ 東京都港区	百万円 100	その他	100.0%	システム開発の委託 役員の兼任 1名
その他5社 (内、連結子会社5社)	—	—	—	—

(注) 1. 「主要な事業の内容」欄には、セグメント情報に記載された名称を記載しております。

2. 特定子会社であります。

3. 有価証券報告書提出会社であります。

4. 上記連結子会社は、売上高（連結会社相互の内部売上高を除く）の連結売上高に占める割合がそれぞれ100分の10以下であるため、主要な損益情報等の記載を省略しております。

## 5 【従業員の状態】

### (1) 連結会社の状態

平成29年12月31日現在

セグメントの名称	従業員数(名)
コンポーネント	3,469
電子情報機器	486
その他	707
全社(共通)	401
合計	5,063

- (注) 1. 従業員数は、当社グループから当社グループ外への出向者を除き、当社グループ外から当社グループへの出向者を含む就業人員数であります。
2. 全社(共通)として記載されている従業員数は、特定のセグメントに区分できない管理部門に所属しているものであります。
3. 前連結会計年度末に比べ従業員数が749名増加しております。主な理由は、業容の拡大に伴い期中採用が増加したことによるものであります。

### (2) 提出会社の状態

平成29年12月31日現在

従業員数(名)	平均年齢(歳)	平均勤続年数(年)	平均年間給与(円)
1,716	39.2	16.2	5,781,821

セグメントの名称	従業員数(名)
コンポーネント	794
電子情報機器	486
その他	35
全社(共通)	401
合計	1,716

- (注) 1. 従業員数は、当社から他社への出向者を除き、他社から当社への出向者を含む就業人員数であります。
2. 平均年間給与は、賞与及び基準外賃金を含んでおります。
3. 全社(共通)として記載されている従業員数は、特定のセグメントに区分できない管理部門に所属しているものであります。

### (3) 労働組合の状態

#### ① 提出会社

名称 キヤノン電子労働組合

組合員数 1,454名

労使関係 安定しており特記すべき事項はありません。

#### ② 連結子会社

該当事項はありません。

## 第2【事業の状況】

### 1【業績等の概要】

#### (1) 業績

当連結会計年度（平成29年1月1日から平成29年12月31日まで）の世界経済は、緩やかに回復していますが、中国やアジア新興国等の経済や政策、欧州諸国の政局に関して、先行きの不透明感が続きました。日本経済は、企業収益や雇用情勢が改善しており、また個人消費も緩やかな回復基調が続きました。

このような状況の中、当社グループ関連市場では依然として厳しい状況が続いております。当社はこのような経営環境においても、収益力を維持向上させるために損益分岐点の引き下げが急務と考え、全社を挙げた生産性向上活動、徹底したムダ排除活動を推し進めるとともに、高付加価値製品の積極的な製造・拡販に努め、業績の確保と収益性の改善を図ってまいりました。

こうした取り組みにより原価率が低減したことに加え、為替環境が円安で推移した結果、当期の連結売上高は837億69百万円（前期比0.6%増）、連結経常利益は98億86百万円（前期比24.2%増）、親会社株主に帰属する当期純利益は77億39百万円（前期比39.4%増）となり、増収増益となりました。

セグメントの業績を示すと、次のとおりであります。

#### ①コンポーネント

コンポーネントセグメントにおきましては、デジタルカメラ市場は、手軽に高画質な写真撮影が可能な製品への需要が高まっていますが、スマートフォンの影響により厳しい状況が続いています。このような状況でしたが、主力製品であるデジタルカメラ用シャッターユニットや絞りユニット等について積極的に受注活動を展開した結果、売上は堅調に推移しました。レーザープリンター・複合機向けのレーザーユニットは、生産性の向上や構成部品の内製化を積極的に推し進め、引き続き原価低減に取り組みました。新製品の製造開始もあり、売上は堅調に推移しました。また、前期末からベトナム子会社において生産を開始した複合機向けのリーダーユニットは、今期は受注が堅調に推移し、売上が増加しました。

これらの結果、当セグメントの売上高は476億50百万円（前年同期比7.9%増）、営業利益は84億37百万円（前年同期比22.4%増）となりました。

#### ②電子情報機器

電子情報機器セグメントにおきましては、ドキュメントスキャナーは、低速機から高速機までラインアップをより充実させたimageFORMULA（イメージフォーミュラ）シリーズの一層の拡販に努めました。当期はドキュメントスキャナーや海外向け小切手スキャナーの新製品を発売した結果、欧州・米州向け等の売上が伸び、全体の売上も増加しました。ハンディターミナルは、スマートフォンやタブレット端末との差別化と新しい自動認識技術の導入により、使用業種、業務範囲が広がっております。当期はハンディターミナル本体の売上は増加しましたが、バッテリー・モバイルプリンター等の関連商品の売上が前期を下回り、全体の売上は減少しました。レーザープリンターは、効率的な部品調達や生産性の向上等に取り組みましたが、減産の影響により売上は減少しました。

これらの結果、当セグメントの売上高は264億95百万円（前年同期比12.4%減）、営業利益は為替影響もあり38億18百万円（前年同期比15.7%増）となりました。

### ③その他

その他セグメントにおきましては、情報関連事業は、情報セキュリティ対策ソフト「SML」、業務分析サービス「ログマネジメント」、名刺管理サービス「アルテマブルー」、医療機関向け日本語入力ソフト「医用辞書」等の受注活動を積極的に展開しました。また、サーバーやネットワークの構築等、インフラ関連やシステム開発・保守・運用案件の獲得に努めました。加えて、金融機関向け情報系基盤・データベース「entrance® Banking」、ならびに学校向け教務管理システム「SCHOOL AID®」の販売に注力し、売上は増加しました。環境機器事業は、小型三次元加工機「MF-150A Mark II」および業務用生ごみ処理機「Land care16 II」、小型電動射出成形機「LS-715シリーズ」を主力商品として積極的な販売活動を展開しました。また、FA機器の新規案件の受注が増え、医療分野では血圧計や滅菌機などの生産移管をキャノングループ内で受け、生産を開始した結果、売上は増加しました。なお、歯科市場向けの小型三次元加工機については、平成30年中の販売を目指し、準備を本格化させています。

これらの結果、当セグメントの売上高は96億23百万円（前年同期比8.6%増）、営業利益は4億56百万円（前年同期比20.2%増）となりました。

### (2) キャッシュ・フローの状況

当連結会計年度においては、主に税金等調整前当期純利益と減価償却費により、営業活動によるキャッシュ・フローは96億79百万円の収入（前年同期比21億23百万円増）となりました。また、投資活動によるキャッシュ・フローは貸付金の回収による収入により28億95百万円の収入（前年同期比109億60百万円増）となり、フリーキャッシュ・フローは125億75百万円となりました。財務活動によるキャッシュ・フローは配当金の支払により23億91百万円の支出（前年同期比56百万円減）となり、これらの結果、現金及び現金同等物の当連結会計年度末残高は261億34百万円となり、前連結会計年度末に比べ100億93百万円増加しました。

## 2【生産、受注及び販売の状況】

### (1) 生産実績

当連結会計年度における生産実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

(単位：百万円)

セグメントの名称	生産高	前年同期比(%)
コンポーネント	47,832	108.7
電子情報機器	26,711	87.6
その他	679	186.0
合計	75,223	100.5

- (注) 1. セグメント間取引については、相殺消去しております。  
 2. 金額は販売価格によっております。  
 3. 上記の金額には消費税等は含まれておりません。

### (2) 受注状況

当連結会計年度における受注状況をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

(単位：百万円)

セグメントの名称	受注高	前年同期比(%)	受注残高	前年同期比(%)
コンポーネント	48,285	108.4	7,821	107.5
電子情報機器	26,465	87.2	4,794	95.2
その他	9,635	103.2	2,249	116.2
合計	84,386	100.2	14,865	104.3

- (注) 1. セグメント間取引については、相殺消去しております。  
 2. 金額は販売価格によっております。  
 3. 上記の金額には消費税等は含まれておりません。

### (3) 販売実績

当連結会計年度における販売実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

(単位：百万円)

セグメントの名称	販売高	前年同期比(%)
コンポーネント	47,650	107.9
電子情報機器	26,495	87.6
その他	9,623	108.6
合計	83,769	100.6

- (注) 1. セグメント間取引については、相殺消去しております。  
 2. 主な相手先の販売実績及び総販売実績に対する割合は次のとおりであります。

(単位：百万円)

相手先	前連結会計年度		当連結会計年度	
	販売高	割合(%)	販売高	割合(%)
キャノン㈱	46,348	55.6	42,137	50.3

3. 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

### 3【経営方針、経営環境及び対処すべき課題等】

#### (1) 会社の経営の基本方針

当社グループは高機能・高品質・低コストで顧客満足度の高い製品を世界に提供し、キヤノングループ共通の企業理念である「世界人類との共生」に貢献し、世界各地で親しまれ、尊敬される優良企業として存在することを経営の基本としております。

さらに、当社グループは人類の今日的課題である地球環境保全を企業行動の規範として位置付け、あらゆる企業活動に反映させてまいります。

#### (2) 目標とする経営指標

当社グループは、世界でトップレベルの高収益企業となることを経営方針としており、その実現のため、売上高経常利益率15%を達成すべき目標として取り組んでまいります。

#### (3) 中長期的な会社の経営戦略、対処すべき課題

世界の景気は緩やかに回復していますが、中国やアジア新興国等の経済や政策、欧州諸国の地政学的リスクに関して先行きの不透明感が続いており、日本経済は、企業収益や雇用情勢が改善しており、個人消費は緩やかに持ち直している状況であります。一方、当社の製品を取り巻く環境は、激しい価格競争による低価格製品へのシフトなど、依然として厳しい状況が続いています。

このような状況下で、当社は以下の課題に取り組んでまいります。

##### <成長分野への参入とその確立>

当社では現在、様々な成長分野への参入を進めております。宇宙関連分野では開発を進めてきた超小型衛星の打ち上げ成功に続き、実証試験を重ね、高精細画像の撮影に成功しています。引き続き本格的な事業化へ向けた準備を進めてまいります。医療分野では、血圧計や滅菌機、薬剤分包機の生産移管を受けて生産を開始し、歯科用の三次元加工機についても発売に向けた準備を本格化させています。さらに、農業分野では完全自動化の植物工場の運営に向けた準備を進めています。

新たな事業に取り組むにあたり、従来にも増して全社員の持てる力を最大限に結集し、質の創造（世界に通用する倫理観・知識・技術および実行力を持った高品質企業を目指す）を強力に推進してまいります。

##### <製品品質と研究開発力の質の向上>

研究開発部門は縦横の情報交換をさらに密に行い、「製品品質の向上」、すなわちユーザーニーズを的確にとらえ、新しいアイデアを取り入れた「ムダのない商品開発」を実行してまいります。さらに、「研究開発力の質の向上」を図るため、時代の流れをよく見極め、新しいものに失敗を恐れずに挑戦してまいります。加えて、社員一人ひとりが各々の分野で第一人者となるために行動し、そのために必要な投資や人材の育成と活用を図り、お客様に喜んでいただける製品を創出してまいります。

##### <事業・製品・生産拠点にマッチした生産体制の追求>

部品発注・生産から顧客への製品納入まで、物・情報の流れの過程でのすべてのムダを徹底的に排除し、生産工場の機能を常に見直し、生産性を向上させてまいります。そして、生産工場で働く人々のやりがいとスピードを重視した現場中心主義の体制を追求し続け、環境変化に素早くかつ柔軟に対応し、高機能、高品質、低コストで真に価値ある製品をお客様に提供し続けてまいります。

#### 4【事業等のリスク】

当社グループの財政状態及び経営成績に影響を及ぼす可能性のあるリスクには、以下のようなものがあります。

##### (1) 親会社等との関係について

当社は、親会社であるキヤノン株式会社（平成29年12月31日現在、当社の議決権の55.3%を所有）を中心とするキヤノングループの一員であります。

当社グループの売上高のうち、キヤノン株式会社に対する売上高の構成比は、当連結会計年度において50.3%を占めております。当社はキヤノン株式会社との間で取引基本契約及び技術研究開発基本契約などを締結して、請負取引及び売買契約に関する基本的な事項を取り決めております。

そのため、キヤノン株式会社の販売戦略や生産体制に関する方針の転換等があった場合には、当社グループの財政状態及び経営成績に影響を及ぼす可能性があります。

キヤノングループ各社との主な取引関係は、「第5 経理の状況 1 連結財務諸表等」における「関連当事者情報」をご参照下さい。

また、キヤノングループにおいては、当社グループの一部製品または一部事業が競合関係にある場合があります。それぞれ得意な業務分野や技術分野を持って事業展開を図っておりますが、今後の製品戦略の変更等によって、競合関係に大きな変化が生じた場合、当社グループの財政状態及び経営成績に影響を及ぼす可能性があります。

##### (2) 当社グループの事業に関するリスクについて

当社グループの主要な市場である国及び地域の経済環境の動向は、当社グループの業績に影響を及ぼす可能性があります。日本、アジア、北米、欧州及び当社グループが事業活動を行うその他の主要な市場において、対象製品の需給の大きな変化や景気後退による個人消費や民間設備投資の減少によって、当社グループが提供する製品・サービスの需要の減少や価格競争の激化が進展する可能性があります。

このような環境下において、当社グループは売上高や収益性を維持できる保証はありません。

##### (3) 海外生産について

当社グループは製品の一部をマレーシア及びベトナムで生産し、中国では当社グループ外の会社に生産委託しております。こうした海外における生産の当社グループの生産高に占める割合は、当連結会計年度で13.2%となっております。当該生産拠点においては、予期しない法律や規制の変更、経済的変動、政治的混乱等のリスクが存在するため、これらの事象が生じた場合には、当社グループの財政状態及び経営成績に影響を及ぼす可能性があります。

##### (4) 為替リスクについて

当社グループは、為替の変動の影響を軽減し、また、これを回避するために様々な手段を講じておりますが、急激な為替の変動は、当社グループの財政状態及び経営成績に影響を及ぼす可能性があります。

##### (5) 設備投資について

当社グループでは、各生産部門の新製品対応や技術革新、あるいは生産能力の増強のため、毎年、新規または更新のための設備投資が必要であります。平成29年12月31日現在、25億円の設備投資を計画しております。これらの設備投資の実施により、償却費負担が増加しますが、計画通り生産が増加していかない場合には、当社グループの財政状態及び経営成績に影響を及ぼす可能性があります。

##### (6) 研究開発投資について

当社グループは先端技術の研究開発を行うための投資を行っております。当連結会計年度において一般管理費に計上した研究開発費は46億円であり、売上高の5.5%を占めております。今後も積極的な研究開発投資を実行していく予定ですが、当該研究開発活動が計画通りに進む保証はなく、十分な成果が適時に上がる保証もありません。

また、当社グループが選定した研究開発テーマに基づき開発した新規技術やそれを応用した製品が普及しない場合や、事業環境の変化等により更なる研究開発費の負担が生じた場合には、先行投資した研究開発費の回収が困難になるなど、当社グループの財政状態及び経営成績に影響を及ぼす可能性があります。



(7) 環境規制・法令遵守・知的財産権について

当社グループでは、「地球環境保全のための活動と実践」という方針のもと、全ての事業活動において環境を重視した様々な施策を推進し、環境、健康及び安全等に関する様々な法律・規則に従っております。予期せぬ法令違反等が生じた場合は、当社グループの社会的信用が失墜するのみでなく、当社グループの業績に影響を与える可能性があります。

また、当社グループは知的財産権（特許権等）の保護について、社内の管理体制を強化し、細心の注意を払っておりますが、将来当社グループが認識していない第三者の所有する知的財産権を侵害した場合、または当社グループが知的財産権を有する技術に対し第三者から当該権利を侵害された場合は、当社グループの業績に影響を及ぼす可能性があります。

(8) 重要な訴訟について

当社グループは、国内外事業に関連して、訴訟その他法律的手続きの対象となるリスクがあります。当連結会計年度において当社グループの事業に影響を及ぼす訴訟は提起されておりませんが、将来重要な訴訟等が提起された場合には、当社グループの財政状態及び経営成績に影響を及ぼす可能性があります。

(9) 災害等について

地震等の自然災害や事故、テロをはじめとした当社グループによるコントロールが不可能な事由によって、当社グループの生産拠点及び設備等が壊滅的な損害を被る可能性があります。この場合は当社グループの操業が中断し、生産及び出荷が遅延することにより売上高が低下し、さらに、生産拠点等の修復または代替のために巨額な費用を要することとなる可能性があります。

(10) 将来に関する事項について

以上に記載している将来に関する事項は、有価証券報告書提出日（平成30年3月29日）現在において当社グループが判断したものであります。

5 【経営上の重要な契約等】

キャノン株式会社との契約

当社は、キャノン株式会社との間に以下の契約を締結しております。

契約名	契約内容	契約期間
取引基本契約	請負取引及び売買取引に関する基本契約	平成11年11月10日から平成12年11月9日まで以降1年毎の自動更新
技術研究開発基本契約	共同開発・委託開発に関する基本契約	昭和56年1月1日から昭和56年12月31日まで以降1年毎の自動更新

## 6 【研究開発活動】

当社グループは競争が激化する厳しい市場環境に対応するため、現行事業の更なる拡大と、新規事業の創出を図るべく、新製品開発活動を行っております。

当連結会計年度において、一般管理費に計上している研究開発費は46億円であります。

セグメントごとの研究開発活動状況は次のとおりであります。

### (1) コンポーネント

デジタルカメラ市場の縮小が続く中、セットメーカー各社は量から質への転換を図り、高機能化製品の開発を進めています。コンパクトカメラにおいては、各社高級機へのシフトを進め、スマートフォンに無い機能を訴求することで新たな需要の掘り起こしを狙っています。一方、レンズ交換式カメラにおいては、ミラーレスカメラがアジア地域だけでなく、ワールドワイドで普及してきており、高機能化、軽量化の競争が激しさを増しております。市場環境は厳しさを増しておりますが、当社はセットメーカーのカスタムニーズに的確に応えたシャッター、絞りユニットを開発し、シェア拡大に取り組んでまいりました。

このような活動の結果、当セグメントにおける研究開発費の金額は3億19百万円となりました。

### (2) 電子情報機器

ドキュメントスキャナーにおいては、接続するPC性能に依存しない高速で高画質なスキャンを実現した画像処理エンジン「DRプロセッサ」を新たに開発し、「DR-M260」に搭載しました。また、磁気カードスキャン、ネットワーク接続やUVインク印字の読み取り機能など、多彩なオプションを設定することで、多様なカウンター業務に一台で対応する「CR-150/120」をリリースしました。さらに、DRスキャナーをネットワークに接続する外付けアダプターをリリースし、複数の機種で有線・無線ネットワーク接続が可能となり、幅広い顧客ニーズに対応します。

ハンディターミナルにおいては、オートフォーカス対応2次元コードスキャナを装備した、グリップ型の「ST-300S」をリリースしました。バーコードの読み取り専用のレーザースキャナーモデル「ST-300L」と併せて、各種コード読み取りを行うさまざまな業務に活用することができます。また、A6サイズの感熱紙に対応した薄型・軽量モバイルプリンタの「BP-F600」をリリースし、PCやスマートデバイスよりBluetooth®やUSB接続による印刷を可能にしました。

このような活動の結果、当セグメントにおける研究開発費の金額は11億44百万円となりました。

なお、各セグメントに配分できない基礎研究に係る研究開発費の金額は31億19百万円となりました。

また、新規事業参入の一環として、これまで培ってきた高精度・高品質・低コストの製造技術を活かした超小型人工衛星の開発・製造を中心とした宇宙関連事業ビジネスの取り組みを進めています。平成29年6月には自社開発・製造の超小型人工衛星「CE-SAT-I」の打上げに成功し、運用実証も順調に進んでいます。

## 7 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

### (1) 当連結会計年度の財政状態の分析

#### (資産)

当連結会計年度末の総資産は1,082億21百万円となり、前連結会計年度末に比べ50億49百万円増加しました。流動資産は706億98百万円となり、67億93百万円増加いたしました。固定資産は375億22百万円となり17億43百万円減少しました。うち有形固定資産は327億61百万円となり16億48百万円減少しました。

#### (負債)

当連結会計年度末の負債は202億35百万円となり、前連結会計年度末に比べ14億19百万円減少しました。流動負債は174億20百万円となり、11億46百万円増加いたしました。固定負債は28億15百万円となり、25億65百万円減少しました。

#### (純資産)

当連結会計年度末の純資産は879億85百万円となり、前連結会計年度末に比べ64億69百万円増加しました。この結果、自己資本比率は、前連結会計年度末の78.9%から81.2%となりました。

### (2) 当連結会計年度の経営成績の分析

#### (売上高)

当連結会計年度の当社グループ関連市場は、業界内競争の激化により、厳しい状況で推移しました。このような環境の中、グループ一丸となって受注活動及び拡販活動に努めた結果、売上高は前期比0.6%増の837億69百万円となりました。

#### (売上総利益)

売上総利益は前期比12.6%増の210億36百万円となりました。

#### (営業利益)

販売費及び一般管理費は主に研究開発費の増加により前年に比べ8億28百万円増加しました。

この結果、営業利益は前期比18.9%増の96億5百万円となりました。

#### (経常利益)

経常利益は前期比24.2%増の98億86百万円となりました。

#### (税金等調整前当期純利益)

税金等調整前当期純利益は前期比24.7%増の98億99百万円となりました。

#### (親会社株主に帰属する当期純利益)

これらの結果、当連結会計年度の親会社株主に帰属する当期純利益は前期比39.4%増の77億39百万円となりました。

### (3) キャッシュ・フローの状況の分析

「1 業績等の概要 (2) キャッシュ・フローの状況」に記載のとおりであります。

### (4) 経営成績に重要な影響を与える要因について

「4 事業等のリスク」に記載のとおりであります。

### 第3【設備の状況】

#### 1【設備投資等の概要】

当連結会計年度の設備投資につきましては、各生産部門の新製品対応・生産能力の増強等の生産設備への投資等を行い、総額18億92百万円の設備投資を実施しております。

なお、生産能力に重要な影響を与える設備の売却・撤去または減失はありません。

セグメントごとの設備投資については、次のとおりであります。

##### (1) コンポーネント

当セグメントにおきましては、新機種対応・生産能力増強等のため、生産設備を中心として投資を行った結果、設備投資金額は9億94百万円となりました。

##### (2) 電子情報機器

当セグメントにおきましては、新機種対応・生産能力増強等のため、生産設備を中心として投資を行った結果、設備投資金額は5億32百万円となりました。

##### (3) その他

当セグメントにおきましては、生産能力増強等のため、生産設備を中心として投資を行った結果、設備投資金額は46百万円となりました。

##### (4) 全社共通

全社共通におきましては、設備の改修・更新等、建物及び構築物を中心に投資を行った結果、設備投資金額は3億19百万円となりました。

## 2【主要な設備の状況】

### (1) 提出会社

平成29年12月31日現在

事業所名 (所在地)	セグメントの名称	設備の 内容	帳簿価額(百万円)					従業員数 (名)
			建物及び 構築物	機械装置 及び運搬具	土地 (面積千㎡)	工具、器具 及び備品	合計	
本社 (埼玉県秩父市)	全社	研究開発用設備 その他設備	126	47	259 (8) [8]	1,778	2,211	113
秩父事業所 (埼玉県秩父市)	コンポーネント・ 電子情報機器	生産設備 その他設備	246	327	137 (7) [33]	33	744	356
美里事業所 (埼玉県美里町)	コンポーネント・ 電子情報機器・ その他	生産設備 その他設備	1,659	1,218	1,212 (138)	123	4,212	644
赤城事業所 (群馬県昭和村)	電子情報機器・ その他	生産設備 その他設備	3,206	1,095	4,929 (264)	141	9,373	259
東京本社 (東京都港区)	全社	研究開発用設備 管理業務用設備	1,587	33	2,409 (1)	563	4,593	344
社員寮 (東京都目黒区他)	全社	厚生施設	1,761	-	2,860 (6)	14	4,636	-

### (2) 国内子会社

主要な設備はありません。

### (3) 在外子会社

平成29年12月31日現在

会社名	事業所名 (所在地)	セグメント の名称	設備の 内容	帳簿価額(百万円)					従業員数 (名)
				建物及び 構築物	機械装置 及び運搬具	土地 (面積千㎡)	工具、器具 及び備品	合計	
Canon Electronics (Malaysia) Sdn. Bhd.	本社 (Penang, Malaysia)	コンポーネント	生産設備 その他設備	469	30	- (-) [22]	20	520	946
Canon Electronics Vietnam Co.,Ltd.	本社 (Hung Yen Province, Vietnam)	コンポーネント	生産設備 その他設備	1,039	255	- (-) [109]	55	1,350	1,729

- (注) 1. 帳簿価額には建設仮勘定の金額を含んでおりません。  
 なお、金額には消費税等は含まれておりません。  
 2. 上記中〔外書〕は、連結会社以外からの賃借であります。  
 3. 現在休止中の主要な設備はありません。

## 3【設備の新設、除却等の計画】

### (1) 重要な設備の新設等

該当事項はありません。

### (2) 重要な設備の除却等

該当事項はありません。

## 第4【提出会社の状況】

### 1【株式等の状況】

#### (1)【株式の総数等】

##### ①【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	60,000,000
計	60,000,000

##### ②【発行済株式】

種類	事業年度末現在 発行数(株) (平成29年12月31日)	提出日現在 発行数(株) (平成30年3月29日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	42,206,540	42,206,540	東京証券取引所 (市場第一部)	単元株式数 100株
計	42,206,540	42,206,540	—	—

#### (2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

#### (3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

#### (4)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

#### (5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
平成22年5月1日(注)	734,714	42,206,540	—	4,969	559	9,595

(注) イーシステム(株) (現キャノンエスキースシステム(株)) との株式交換 (交換比率 1 : 5.5) に伴う新株発行による増加であります。

## (6) 【所有者別状況】

平成29年12月31日現在

区分	株式の状況(1単元の株式数100株)								単元未満株式の状況(株)
	政府及び地方公共団体	金融機関	金融商品取引業者	その他の法人	外国法人等		個人その他	計	
					個人以外	個人			
株主数(人)	—	34	26	118	178	12	10,677	11,045	—
所有株式数(単元)	—	45,494	3,117	234,912	57,859	14	79,129	420,525	154,040
所有株式数の割合(%)	—	10.8	0.7	55.9	13.8	0.0	18.8	100.0	—

(注) 1. 自己株式1,390,846株は、「個人その他」に13,908単元、「単元未満株式の状況」に46株含まれておりません。

2. 上記「その他の法人」には、株式会社証券保管振替機構名義の株式が16単元含まれております。

## (7) 【大株主の状況】

平成29年12月31日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数(千株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合(%)
キャノン株式会社	東京都大田区下丸子3-30-2	22,500	53.3
ビーエヌピー パリバセック サービス ルクセンブルグ ジャスデック アバディーン グローバル クライアント アセツ (常任代理人) 香港上海銀行東京支店カスタディ業務部	33 RUE DE GASPERICH, L-5826 HOWALD-HESPERANGE, LUXEMBOURG (東京都中央区日本橋3-11-1)	944	2.2
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	東京都港区浜松町2-11-3	801	1.9
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	東京都中央区晴海1-8-11	595	1.4
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口9)	東京都中央区晴海1-8-11	493	1.2
第一生命保険株式会社	東京都千代田区有楽町1-13-1	414	1.0
ステート ストリート バンク アンド トラスト カンパニー 505223 (常任代理人) 株式会社みずほ銀行決済営業部	P. O. BOX 351 BOSTON MASSACHUSETTS 02101 U. S. A. (東京都港区港南2-15-1 品川インターシティA棟)	370	0.9
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口5)	東京都中央区晴海1-8-11	349	0.8
ザ バンク オブ ニューヨーク メロン 140042 (常任代理人) 株式会社みずほ銀行決済営業部	225 LIBERTY STREET, NEW YORK, NEW YORK U. S. A. (東京都港区港南2-15-1 品川インターシティA棟)	295	0.7
ザ バンク オブ ニューヨーク メロン 140044 (常任代理人) 株式会社みずほ銀行決済営業部	225 LIBERTY STREET, NEW YORK, NEW YORK U. S. A. (東京都港区港南2-15-1 品川インターシティA棟)	280	0.7
計	—	27,045	64.1

(注) 1. 上記の所有株式数のうち、信託業務に係る株式数は、次のとおりであります。

日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口) 801千株

日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口) 595千株

日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口9) 493千株

日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口5) 349千株

2. 上記のほか当社所有の自己株式1,390千株(3.3%)があります。

## (8) 【議決権の状況】

## ① 【発行済株式】

平成29年12月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	—	—	—
議決権制限株式(自己株式等)	—	—	—
議決権制限株式(その他)	—	—	—
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 1,390,800	—	権利内容に何ら限定のない当社における標準となる株式
完全議決権株式(その他)	普通株式 40,661,700	406,617	同上
単元未満株式	普通株式 154,040	—	同上
発行済株式総数	42,206,540	—	—
総株主の議決権	—	406,617	—

- (注) 1. 「完全議決権株式(その他)」の欄には、株式会社証券保管振替機構名義の株式が1,600株(議決権16個)含まれております。
2. 「単元未満株式」の欄には、当社所有の自己株式46株が含まれております。

## ② 【自己株式等】

平成29年12月31日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) キャノン電子株式会社	埼玉県秩父市下影森1248	1,390,800	—	1,390,800	3.3
計	—	1,390,800	—	1,390,800	3.3

## (9) 【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。



## 2 【自己株式の取得等の状況】

【株式の種類等】 会社法第155条第7号に該当する普通株式の取得

(1) 【株主総会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

(2) 【取締役会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

(3) 【株主総会決議又は取締役会決議に基づかないものの内容】

区分	株式数(株)	価額の総額(百万円)
当事業年度における取得自己株式	770	1
当期間における取得自己株式	212	0

(注) 当期間における取得自己株式数には、平成30年3月1日から有価証券報告書提出日までの単元未満株式の買取りによる株式数は含めておりません。

(4) 【取得自己株式の処理状況及び保有状況】

区分	当事業年度		当期間	
	株式数(株)	処分価額の総額 (百万円)	株式数(株)	処分価額の総額 (百万円)
引き受ける者の募集を行った取得自己株式	—	—	—	—
消却の処分を行った取得自己株式	—	—	—	—
合併、株式交換、会社分割に係る移転を行った取得自己株式	—	—	—	—
その他(単元未満株式の買増請求による売渡し)	30	0	—	—
保有自己株式数	1,390,846	—	1,391,058	—

(注) 当期間におけるその他及び保有自己株式数には、平成30年3月1日から有価証券報告書提出日までの単元未満株式の買取り及び売渡しによる株式数は含めておりません。

### 3 【配当政策】

当社グループは、将来にわたる株主価値増大のために内部留保を充実させ、事業の積極展開・体質強化を図るとともに、株主への安定した配当を維持することを利益配分の基本方針としております。

当社は、中間配当と期末配当の年2回の剰余金の配当を行うことを基本方針としており、これらの剰余金の配当の決定機関は、期末配当については株主総会、中間配当については取締役会であります。なお、当社は、会社法第459条第1項の規定に基づき、取締役会の決議をもって剰余金の配当等を行うことができる旨、また、会社法第454条第5項の規定に基づき、取締役会の決議により、毎年6月30日を基準日として、中間配当を行うことができる旨を定款に定めております。

当事業年度の期末配当金につきましては、上記方針に基づき、1株につき40円とし、中間配当金（30円）と合わせて年間配当金を1株当たり70円としております。

また、当事業年度の内部留保につきましては、事業拡大のための投資及び収益力の強化を目的として、開発・生産・販売に有効に充てたいと考えております。

なお、基準日が当事業年度に属する剰余金の配当は、以下のとおりであります。

決議年月日	配当金の総額 (百万円)	1株当たり配当額 (円)
平成29年7月26日 取締役会決議	1,224	30
平成30年3月28日 定時株主総会決議	1,632	40

### 4 【株価の推移】

#### (1) 【最近5年間の事業年度別最高・最低株価】

回次	第75期	第76期	第77期	第78期	第79期
決算年月	平成25年12月	平成26年12月	平成27年12月	平成28年12月	平成29年12月
最高(円)	2,100	2,092	2,560	2,001	2,653
最低(円)	1,712	1,700	1,836	1,360	1,706

(注) 最高・最低株価は、東京証券取引所市場第一部におけるものであります。

#### (2) 【最近6月間の月別最高・最低株価】

月別	7月	8月	9月	10月	11月	12月
最高(円)	2,341	2,289	2,291	2,621	2,653	2,565
最低(円)	2,108	2,137	2,151	2,265	2,468	2,398

(注) 最高・最低株価は、東京証券取引所市場第一部におけるものであります。

## 5 【役員 の 状 況】

男性16名 女性0名 (役員のうち女性の比率0%)

役名	職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (株)
代表取締役 社長		酒 巻 久	昭和15年3月6日生	昭和42年1月 平成元年3月 平成3年2月 平成4年5月 平成8年3月 平成11年3月 キヤノン(株)入社 同社取締役 同社総合企画担当 同社生産本部長兼環境保証担当 同社常務取締役 当社監査役 当社代表取締役社長(現在)	(注) 3	12,200
取締役 副社長	LBP事業部長 兼事務機コンポ 事業部長	橋 元 健	昭和37年9月12日生	昭和60年4月 平成14年5月 平成16年4月 平成19年3月 平成21年3月 平成24年1月 平成24年3月 平成25年3月 平成25年11月 平成25年12月 キヤノン(株)入社 当社LBP事業部LBP管理部長 当社LBP事業部副事業部長 兼LBP管理部長 当社取締役 当社LBP事業部長(現在) 当社常務取締役 当社事務機コンポ事業部長(現在) 当社専務取締役 当社取締役副社長(現在) 当社機能部品事業推進センター所 長 当社生産技術センター所長	(注) 3	6,100
専務取締役	磁気コンポ 事業部長	江 原 孝 志	昭和32年2月10日生	昭和55年4月 平成14年1月 平成19年3月 平成20年4月 平成21年3月 平成25年3月 平成25年10月 平成28年3月 当社入社 当社磁気コンポ事業部磁気コンポ 営業部長 当社取締役 当社磁気コンポ事業部長 兼磁気コンポ営業部長 当社磁気コンポ事業部長 当社常務取締役 当社専務取締役(現在) 当社磁気コンポ事業部長 兼磁気コンポ設計部長 当社磁気コンポ事業部長(現在)	(注) 3	3,900
専務取締役	総合管理センタ ー所長兼人事部 長	石 塚 巧	昭和33年12月7日生	昭和57年4月 平成13年1月 平成16年4月 平成17年3月 平成18年1月 平成20年4月 平成21年3月 平成25年1月 平成28年3月 平成29年8月 当社入社 当社人事部長 当社人事部長兼施設部長 当社取締役 当社人事部長 当社人事センター所長 当社常務取締役 当社人事センター所長兼経理部長 当社専務取締役(現在) 当社総合管理センター所長兼人事 部長(現在)	(注) 3	4,200
常務取締役	事務機コンポ事 業部副事業部長 兼モータ事業部 長兼生産技術セ ンター所長	新 井 忠	昭和33年1月19日生	昭和56年4月 平成15年4月 平成17年4月 平成19年12月 平成23年3月 平成23年7月 平成24年10月 平成27年6月 平成28年3月 当社入社 当社事務機コンポ事業部事務機コ ンポ管理部長 当社事務機コンポ事業部事務機コ ンポ第三工場長 当社事務機コンポ事業部事務機コ ンポ第四工場長 当社取締役 当社事務機コンポ事業部副事業部 長兼事務機コンポ第二工場長 当社事務機コンポ事業部副事業部 長兼モータ事業部長 当社事務機コンポ事業部副事業部 長兼モータ事業部長兼生産技術セ ンター所長(現在) 当社常務取締役(現在)	(注) 3	2,450

役名	職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (株)
常務取締役	材料研究所長兼 材料研究部長	周 耀 民	昭和37年11月11日生	平成12年4月 当社入社 平成20年2月 当社中央研究所材料研究所材料研究部長 平成20年3月 当社中央研究所材料研究所長 兼材料研究部長 平成21年3月 当社材料研究所長 兼材料研究部長（現在） 平成24年3月 当社取締役 平成28年3月 当社常務取締役（現在）	(注) 3	1,900
常務取締役		内 山 毅	昭和39年12月22日生	昭和62年4月 アジアコンピュータ(株)(現キャノン電子テクノロジー(株))入社 平成10年4月 同社営業推進部長 平成11年6月 同社取締役営業本部長 平成18年4月 同社常務取締役執行役員SI事業部長兼営業副本部長 平成19年12月 同社専務執行役員システム・インテグレーション事業本部長 平成20年3月 同社代表取締役社長（現在） 平成22年3月 当社取締役 平成29年3月 当社常務取締役（現在）	(注) 3	6,500
取締役	NA事業部長	高 橋 純 一	昭和35年1月1日生	昭和57年4月 当社入社 平成16年10月 当社材料研究所材料研究部長 平成20年2月 当社NA事業推進部副事業推進部長 平成20年3月 当社NA事業推進部長 平成23年4月 当社NA事業部長（現在） 平成25年3月 当社取締役（現在）	(注) 3	2,350
取締役	調達センター所 長兼EI事業部長	植 竹 利 雄	昭和35年6月17日	昭和56年4月 キャノン(株)入社 平成20年5月 キャノンエンジニアリング香港社長 平成23年4月 キャノン(株)調達本部 グローバル調達統括センター 調達統括企画部長 平成24年4月 当社調達センター所長 平成25年2月 当社調達センター所長 兼EI事業部長（現在） 平成28年3月 当社取締役（現在）	(注) 3	1,000
取締役		豊 田 正 和	昭和24年6月28日生	昭和48年4月 通商産業省入省 平成15年8月 経済産業省商務情報政策局長 平成18年7月 同省通商政策局長 平成19年7月 同省経済産業審議官 平成20年8月 同省顧問 内閣官房宇宙開発戦略本部事務局長 平成20年11月 内閣官房参与 平成22年6月 ㈱村田製作所社外監査役 平成22年7月 財団法人（現一般財団法人）日本エネルギー経済研究所理事長（現在） 平成23年6月 日東電工(株)社外監査役（現在） 平成27年3月 当社社外取締役（現在） 平成28年6月 ㈱村田製作所社外取締役（現在）	(注) 3	—

役名	職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (株)
取締役		内海勝彦	昭和21年7月15日生	昭和44年4月 古河電気工業㈱入社 平成5年6月 同社営業本部電子機器営業部長 平成9年6月 同社中部支社長 平成12年6月 同社取締役中部支社長 平成15年6月 同社常務取締役兼執行役員常務 平成16年4月 同社常務取締役兼執行役員常務CMO 兼輸出管理室長 平成17年6月 古河電池㈱代表取締役社長 平成24年6月 同社相談役 平成27年3月 当社社外取締役(現在) リリカラ㈱社外取締役(現在) 平成27年4月 ㈱ジャテック代表取締役社長	(注)3	—
取締役		戸莉利和	昭和22年11月28日生	昭和46年7月 労働省入省 平成11年7月 同省大臣官房長 平成13年1月 厚生労働省大臣官房長 平成14年8月 同省職業安定局長 平成15年8月 同省厚生労働審議官 平成16年7月 同省事務次官 平成19年10月 独立行政法人高齢・障害者雇用支援機構理事長 平成20年4月 法政大学大学院政策創造研究科客員教授(現在) 平成23年6月 財形住宅金融㈱代表取締役会長(現在) 平成26年5月 公益社団法人日本看護家政紹介事業協会会長(現在) 平成30年3月 当社社外取締役(現在)	(注)3	—
常勤監査役		川名達也	昭和31年4月27日生	昭和55年4月 キヤノン㈱入社 平成13年3月 Canon Europe Ltd. プロダクトマネジメントグループ 2シニアゼネラルマネージャー 平成15年3月 当社IMS事業部IMS事業企画部長 平成17年3月 当社HT事業部長 当社取締役 当社常務取締役 平成22年3月 イーシステム㈱(現キヤノンエス 平成24年3月 キースシステム㈱)代表取締役社長 平成25年1月 当社企画室長兼監理室長 平成25年3月 当社常勤監査役(現在)	(注)5	3,300
常勤監査役		林潤一郎	昭和32年10月27日	昭和56年4月 キヤノン㈱入社 平成23年7月 当社品質保証部長 平成26年7月 当社常務執行役員 平成30年3月 当社常勤監査役(現在)	(注)6	—

役名	職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (株)
監査役		岩村修二	昭和24年9月16日生	昭和51年4月 検事任官 平成14年10月 東京地方検察庁特別捜査部長 平成22年6月 仙台高等検察庁検事長 平成23年8月 名古屋高等検察庁検事長 平成24年10月 弁護士登録（現在） 長島・大野・常松法律事務所顧問（現在） 平成25年5月 ㈱ファミリーマート（現ユニー・ファミリーマートホールディングス㈱）社外監査役（現在） 平成25年6月 ㈱リケン社外監査役（現在） 平成26年6月 ㈱北海道銀行社外監査役（現在） 平成27年3月 当社監査役（現在） 平成29年10月 年金積立金管理運用独立行政法人経営委員兼監査委員（現在）	(注) 4	—
監査役		中田清穂	昭和37年2月4日生	昭和60年10月 青山監査法人入所 平成2年5月 公認会計士登録 平成9年5月 ㈱ディーバ取締役副社長 平成17年7月 (有)ナレッジネットワーク代表取締役社長（現在） 平成27年3月 当社監査役（現在） 平成29年1月 中央宣伝企画㈱監査役（現在） 平成29年6月 ㈱アドバネクス社外監査役（現在）	(注) 4	—
計						43,900

- (注) 1. 取締役 豊田正和、内海勝彦及び戸莉利和の各氏は、社外取締役であります。
2. 監査役 岩村修二及び中田清穂の両氏は、社外監査役であります。
3. 平成30年3月28日開催の定時株主総会の終結の時から1年間
4. 平成27年3月25日開催の定時株主総会の終結の時から4年間
5. 平成29年3月29日開催の定時株主総会の終結の時から4年間
6. 平成30年3月28日開催の定時株主総会の終結の時から4年間

## 6 【コーポレート・ガバナンスの状況等】

### (1) 【コーポレート・ガバナンスの状況】

#### ① コーポレート・ガバナンスに関する基本的な考え方

当社は、継続的に企業価値を向上させていくためには、役員及び従業員の高い倫理意識を基に、経営における透明性の向上と経営目標の達成に向けた内部統制機能の強化が極めて重要であると認識しております。

#### ② 企業統治の体制

##### (a) 企業統治の体制の概要及び当該体制を採用する理由

当社は監査役制度を採用しており、取締役会、監査役会に加えリスクマネジメント委員会の設置、監理室（1名）による内部監査制度等により、コーポレート・ガバナンスを構築しております。有価証券報告書提出日（平成30年3月29日）現在における役員構成は、取締役12名（うち3名が社外取締役）、監査役4名（うち2名が社外監査役）となっております。

当社の取締役会は、社外取締役を含む取締役12名で構成され、実効性、効率性のある経営の意思決定を目指しております。加えて重要案件につきましては、取締役及び事業部長が参加する経営会議で決定する仕組みとなっております。なお、同会議には監査役が出席しております。

また、社内統制の仕組みを強化する為、リスクマネジメント委員会を組織し、コンプライアンス・リスクマネジメントの強化、役員並びに従業員の倫理観・遵法精神の更なる向上に努めております。

こうした取組みにより、当社のコーポレート・ガバナンスは十分に機能し、またその体制の維持と強化は可能であると考えます。

##### (b) 内部統制システムに関する基本的な考え方及びその整備状況

当社の「内部統制システムに関する基本的な考え方及びその整備状況」は以下のとおりであります。

#### イ コンプライアンス体制

- ・取締役会は、キャノン電子グループの経営上の重要事項を慎重に審議のうえ意思決定するとともに、代表取締役社長および業務執行取締役等（以下「取締役等」）の業務の執行状況につき報告を受けております。
- ・取締役等および従業員が業務の遂行にあたり守るべき基準として「キャノングループ行動規範」を採択し、高い倫理観と遵法精神を備える自律した強い個人を育成すべく、コンプライアンス推進活動を実施しております。
- ・リスクマネジメント体制の一環として、日常の業務遂行において法令・定款の違反を防止する業務フロー（チェック体制）およびコンプライアンス教育体制を整備しております。
- ・内部監査部門は、取締役等および従業員の業務の執行状況を監査する権限を有しており、法令・定款の遵守の状況についても監査を実施しております。
- ・従業員は、キャノン電子グループにおいて法令・定款の違反を発見した場合、内部通報制度を活用し、社外取締役、社外監査役を含むいずれの役員にも匿名で事実を申告することができます。また、当社の方針として、内部通報者に対する不利益な取り扱いの禁止を宣言しております。

#### ロ リスクマネジメント体制

- ・リスクマネジメントに関する基本方針に基づき、リスクマネジメント委員会を設けております。同委員会は、キャノン電子グループが事業を遂行するに際して直面し得る重大なリスクの把握（法令違反、財務報告の誤り、品質問題、労働災害、自然災害等）を含む、リスクマネジメント体制の整備に関する諸施策を立案するとともに、取締役会の承認を得た活動計画に従って当該体制の整備・運用状況を評価し、取締役会に報告しております。
- ・取締役会付議に至らない案件であっても、重要なものについては経営会議および各種経営専門委員会において慎重に審議を行っております。

#### ハ 効率的な職務執行体制

- ・取締役等は、代表取締役社長の指揮監督の下、分担して職務を執行しております。
- ・代表取締役社長は、「中期経営計画」を策定し、キャノン電子グループ一体となった経営を行っております。

## ニ グループ管理体制

当社取締役会が定めるグループ会社に関する管理基本方針に基づき、グループ会社の重要な意思決定について、以下のとおり、当社からの承認および当社に対し報告を要する事項を定め、キャノン電子グループの内部統制システムを整備しております。

- ・重要な意思決定について、当社の事前承認を得ることまたは当社に対し報告を行っております。
- ・リスクマネジメントに関する基本方針に基づき、その事業の遂行に際して直面し得る重大なリスクを把握のうえ、これらのリスクに関するリスクマネジメント体制の整備・運用状況を確認、評価し、当社に報告を行っております。
- ・設立準拠法の下、適切な機関設計を行うとともに、執行責任者の権限や決裁手続の明確化を図っております。
- ・「キャノングループ行動規範」によるコンプライアンスの徹底のほか、リスクマネジメント体制の一環として、日常の業務遂行において法令・定款の違反を防止する業務フロー（チェック体制）およびコンプライアンス教育体制を整備しております。
- ・内部通報制度を設けるとともに、会社の方針として、内部通報者に対する不利益な取り扱いの禁止を宣言しております。

## ホ 情報の保存および管理体制

取締役会議事録および取締役等の職務の執行に係る決裁書等の情報は、法令ならびに関連する規程に基づき、各所管部門が適切に保存・管理し、取締役、監査役および内部監査部門は、いつでもこれらを閲覧することができます。

## ヘ 監査役監査体制

- ・監査役がその職務を補助すべき従業員を置くことを求めた場合、監査役を補助すべき従業員を指名します。この従業員は、所属部門の業務と兼務とするが、補助すべき監査役の職務に関連して取締役の指揮命令を受けず、この従業員の人事異動には、事前の監査役会の同意を要します。
- ・監査役は、取締役会のみならず、経営会議、リスクマネジメント委員会等の社内の必要な会議に出席し、取締役等による業務の執行状況を把握します。
- ・人事、経理、法務等の本社管理部門は、監査役と会合を持ち、業務の執行状況につき適宜報告しております。また、重大な法令違反等があったときは、関連部門が直ちに監査役に報告します。
- ・監査役は、会計監査人から定期報告を受けます。
- ・監査役は、キャノン電子グループ各社の監査役と定期的に会合を持ち、情報共有を通じてグループ一体となった監査体制の整備を図っております。また、監査役は、キャノン電子グループ各社の巡回監査を行い、子会社の取締役等による業務の執行状況を把握しております。
- ・会社の方針として、監査役に報告または通報した者に対する不利益な取り扱いの禁止を宣言しております。
- ・監査役会は、当社およびキャノン電子グループ各社に対する年間の監査計画とともに予算を立案し、当社は、必要となる予算を確保します。臨時の監査等により予算外の支出を要するときは、その費用の償還に応じております。

## ③ 内部監査及び監査役監査の状況

社外監査役2名を含む4名の監査役は、監査の方針及び業務の分担に従い、重要な決議書類等の閲覧、業務及び財産の状況の調査等により厳正な監査を実施しております。監査役及び監査役会は、会計監査人から監査計画の概要、監査重点項目、監査結果等について報告を受け、意見交換を行う他、更に必要に応じて会計監査人の往査に立ち会うなど、会計監査人と緊密な連携を図っております。また、監査役は、内部監査部門である監理室と、必要に応じ情報交換や内部監査結果の報告を受けるなど連携を取っております。

## ④ 社外取締役及び社外監査役

当社は、独立社外取締役および独立社外監査役の独立性を担保するための基準を明らかにすることを目的として、「独立社外役員の独立性判断基準」を制定しており、社外取締役・社外監査役の要件および金融商品取引所の独立性基準を満たし、且つ、次の各号のいずれにも該当しない者をもって、「独立社外役員」（当社経営陣から独立し、一般株主と利益相反が生じるおそれのない者）と判断しております。



- イ 当社グループ（当社およびその子会社をいう。以下同じ。）を主要な取引先とする者もしくは当社グループの主要な取引先またはそれらの業務執行者
- ロ 当社グループの主要な借入先またはその業務執行者
- ハ 当社の大株主またはその業務執行者
- ニ 当社グループから多額の寄付を受けている者またはその業務執行者
- ホ 当社グループから役員報酬以外に多額の金銭その他の財産を得ているコンサルタント、会計専門家または法律専門家（法人、組合等の団体である場合は当該団体に所属する者をいう。）
- ヘ 当社グループの会計監査人である監査法人に所属する公認会計士（当社の直前3事業年度のいずれかにおいてそうであった者を含む。）
- ト 社外役員との相互就任関係となる他の会社の業務執行者
- チ 各号に該当する者のうち、会社の取締役、執行役、執行役員、専門アドバイザーファームのパートナー等、重要な地位にある者の近親者（配偶者および二親等以内の親族）

社外取締役豊田正和氏は、経済産業審議官や内閣官房参与などの要職を歴任しており、経済、国際貿易分野での豊富な経験と高度で幅広い専門知識を有しているため、社外取締役としての職務を適切に遂行して頂けるものと考えております。

社外取締役内海勝彦氏は、長年にわたる会社経営の豊富な経験と高度で幅広い専門知識を有しているため、社外取締役として当社の経営に有益なご意見やご指摘を頂けるものと考えております。

社外取締役戸蒔利和氏は、厚生労働審議官や厚生労働省事務次官などの要職を歴任しており、雇用・労働行政分野での豊富な経験と高度で幅広い専門知識を有しているため、社外取締役として当社の経営に有益なご意見やご指摘を頂けるものと考えております。

社外監査役岩村修二氏は、仙台・名古屋高等検察庁検事長などの要職を歴任後、弁護士として企業法務に携わっており、豊富な経験と高度で幅広い専門知識を有しているため、社外監査役としての職務を適切に遂行して頂けるものと考えております。

社外監査役中田清穂氏は、会社経営の経験に加え、公認会計士として長年にわたり企業会計の実務に携わっており、企業会計に関する豊富な経験と高度で幅広い専門知識を有しているため、社外監査役として経営全般の監視と、一層の適正な監査の実現のために有益なご意見やご指摘を頂けるものと考えております。

#### ⑤ 会計監査の状況

当社は新日本有限責任監査法人と監査契約を結び、会計監査を受けております。

当社の会計監査業務を執行する公認会計士の氏名及び所属する監査法人名等は、以下のとおりであります。

業務を執行する公認会計士の氏名	所属する監査法人
指定有限責任社員 業務執行社員 志村 さやか	新日本有限責任監査法人
指定有限責任社員 業務執行社員 香山 良	新日本有限責任監査法人

(注) 1. 継続監査年数については、7年（筆頭業務執行社員は5年）以内であるため記載を省略しております。

2. 同監査法人はすでに自主的に業務執行社員について、当社の会計監査に一定期間を超えて関与することのないよう措置をとっております。

当社の会計監査業務に係る補助者は、公認会計士11名、その他22名であります。

⑥ 取締役会で決議できる株主総会決議事項

(剰余金の配当等の決定機関)

当社は、剰余金の配当等会社法第459条第1項各号に定める事項について、法令に別段の定めがある場合を除き、株主総会の決議によらず取締役会の決議により定める旨、定款に定めております。これは、剰余金の配当等を取締役会の権限とすることにより、機動的な資本政策及び配当政策を遂行することを目的とするものであります。ただし、株主総会決議による剰余金の処分権限を排除するものではありません。

(取締役及び監査役の実任免除)

当社は、取締役及び監査役の実任免除について、会社法第426条第1項の規定により、任務を怠ったことによる取締役（取締役であった者を含む。）及び監査役（監査役であった者を含む。）の損害賠償責任を、法令の限度において、取締役会の決議によって免除することができる旨定款に定めております。これは、取締役及び監査役がその期待される役割を十分に発揮できることを目的とするものであります。

⑦ 責任限定契約の内容の概要

当社は、会社法第427条第1項に基づき、社外取締役及び社外監査役との間において、会社法第423条第1項の損害賠償責任を限定する契約を締結しております。当該契約に基づく損害賠償責任限度額は、法令が定める額としております。なお、当該責任限定が認められるのは、当該社外取締役及び社外監査役が責任の原因となった職務の遂行について、善意でかつ重大な過失がない場合に限られます。

⑧ 取締役の定数

当社の取締役は18名以内とする旨定款に定めております。

⑨ 取締役選任の決議要件

当社は、取締役の選任決議について、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の過半数をもって行う旨、及び、選任決議は、累積投票によらない旨を定款に定めております。

⑩ 株主総会の特別決議要件

当社は、会社法第309条第2項に定める株主総会の特別決議要件について、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の3分の2以上をもって行う旨を定款に定めております。これは、株主総会における特別決議の定足数を緩和することにより、株主総会の円滑な運営を行うことを目的とするものであります。

⑪ 役員の報酬等

(a) 提出会社の役員区分ごとの報酬等の総額、報酬等の種類別の総額及び対象となる役員の員数

役員区分	報酬等の総額 (百万円)	報酬等の種類別の総額 (百万円)		対象となる 役員の員数 (名)
		基本報酬	賞与	
取締役 (社外取締役を除く。)	346	313	32	12
監査役 (社外監査役を除く。)	20	20	—	2
社外役員	24	24	—	4

(注) 1. 対象となる役員には、退任した取締役2名が含まれております。  
2. 賞与は、役員賞与引当金繰入額を記載しております。

(b) 提出会社の役員ごとの連結報酬等の総額等

連結報酬等の総額が1億円以上である者が存在しないため、記載しておりません。

(c) 使用人兼務役員の使用人給与のうち、重要なもの

重要なものは存在しないため、記載しておりません。

(d) 役員の報酬等の額の決定に関する方針

・基本報酬

株主総会の決議により、取締役全員及び監査役全員のそれぞれの報酬総額の最高限度額を定めております。各取締役の報酬額は、取締役会の決議に基づき、各監査役の報酬額は監査役会の協議により決定いたします。

・役員賞与

役員賞与は、当該年度の会社業績に基づき算出された支給総額を定時株主総会に提案し、承認を得ております。各取締役の賞与支給額は、株主総会で承認された支給総額に基づいて、取締役会の決議により決定いたします。

・ストックオプション

業務向上に対する意欲や士気を一層高めることを目的として、ストックオプションとして新株予約権を無償で発行すること及びその内容を定時株主総会に提案し、承認を得ております。

⑫ 株式の保有状況

(a) 保有目的が純投資目的以外の目的である投資株式

銘柄数 7銘柄  
貸借対照表計上額の合計額 1百万円

(b) 保有目的が純投資目的以外の目的である投資株式の保有区分、銘柄、株式数、貸借対照表計上額及び保有目的該当事項はありません。

(c) 保有目的が純投資目的である投資株式

	前事業年度 (百万円)	当事業年度 (百万円)			
	貸借対照表 計上額の合計額	貸借対照表 計上額の合計額	受取配当金 の合計額	売却損益 の合計額	評価損益 の合計額
非上場株式	—	—	—	—	—
非上場株式以外の株式	519	980	20	—	470

(2) 【監査報酬の内容等】

① 【監査公認会計士等に対する報酬の内容】

区分	前連結会計年度		当連結会計年度	
	監査証明業務に基づく報酬(百万円)	非監査業務に基づく報酬(百万円)	監査証明業務に基づく報酬(百万円)	非監査業務に基づく報酬(百万円)
提出会社	67	—	66	—
連結子会社	10	—	10	—
計	78	—	76	—

② 【その他重要な報酬の内容】

前連結会計年度

当社の連結子会社であるCanon Electronics (Malaysia) Sdn. Bhd. 他1社は、当社の監査公認会計士等と同一のネットワークに属しているErnst & Youngに対して、財務諸表の監査証明業務に基づく報酬4百万円、非監査業務に基づく報酬0百万円を支払っております。

当連結会計年度

当社の連結子会社であるCanon Electronics (Malaysia) Sdn. Bhd. 他1社は、当社の監査公認会計士等と同一のネットワークに属しているErnst & Youngに対して、財務諸表の監査証明業務に基づく報酬4百万円、非監査業務に基づく報酬0百万円を支払っております。

③ 【監査公認会計士等の提出会社に対する非監査業務の内容】

該当事項はありません。

④ 【監査報酬の決定方針】

当社は監査公認会計士等に対する監査報酬について、監査内容、監査時間数等の妥当性を検証し、監査報酬を決定しております。

## 第5【経理の状況】

### 1. 連結財務諸表及び財務諸表の作成方法について

(1) 当社の連結財務諸表は、「連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（昭和51年大蔵省令第28号。）に基づいて作成しております。

(2) 当社の財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」（昭和38年大蔵省令第59号。以下、「財務諸表等規則」という。）に基づいて作成しております。

また、当社は、特例財務諸表提出会社に該当し、財務諸表等規則第127条の規定により財務諸表を作成しております。

### 2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、連結会計年度(平成29年1月1日から平成29年12月31日まで)の連結財務諸表及び事業年度(平成29年1月1日から平成29年12月31日まで)の財務諸表について、新日本有限責任監査法人により監査を受けております。

### 3. 連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組みについて

当社は、連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組みを行っております。具体的には、会計基準等の内容を適切に把握できる体制を整備するため、公益財団法人財務会計基準機構へ加入し、また、監査法人及び各種団体の主催する講習会に参加する等積極的な情報収集活動に努めております。

1 【連結財務諸表等】

(1) 【連結財務諸表】

① 【連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成28年12月31日)	当連結会計年度 (平成29年12月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	16,270	26,434
受取手形及び売掛金	22,394	23,393
リース投資資産	299	227
商品及び製品	975	969
仕掛品	※2 2,233	※2 3,028
原材料及び貯蔵品	76	86
短期貸付金	20,000	15,000
繰延税金資産	280	297
その他	1,374	1,261
貸倒引当金	△0	-
流動資産合計	63,905	70,698
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	31,539	31,714
減価償却累計額	△19,604	△20,377
建物及び構築物（純額）	11,935	11,337
機械装置及び運搬具	23,043	22,951
減価償却累計額	△18,743	△19,183
機械装置及び運搬具（純額）	4,299	3,767
工具、器具及び備品	18,694	18,613
減価償却累計額	△15,428	△15,649
工具、器具及び備品（純額）	3,265	2,964
土地	14,618	14,620
建設仮勘定	290	71
有形固定資産合計	34,409	32,761
無形固定資産	1,447	1,493
投資その他の資産		
投資有価証券	565	1,041
繰延税金資産	2,060	1,406
その他	782	820
貸倒引当金	△0	△0
投資その他の資産合計	3,408	3,267
固定資産合計	39,266	37,522
資産合計	103,171	108,221

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成28年12月31日)	当連結会計年度 (平成29年12月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	12,105	10,947
電子記録債務	-	2,006
リース債務	106	102
未払費用	1,295	1,330
未払法人税等	629	1,260
賞与引当金	377	352
役員賞与引当金	27	32
受注損失引当金	※2 188	※2 11
その他	1,543	1,377
流動負債合計	16,274	17,420
固定負債		
役員退職慰労引当金	230	221
退職給付に係る負債	4,878	2,421
繰延税金負債	58	19
その他	213	152
固定負債合計	5,381	2,815
負債合計	21,655	20,235
純資産の部		
株主資本		
資本金	4,969	4,969
資本剰余金	9,595	9,595
利益剰余金	71,229	76,519
自己株式	△2,579	△2,580
株主資本合計	83,215	88,503
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	203	348
繰延ヘッジ損益	△40	-
為替換算調整勘定	719	524
退職給付に係る調整累計額	△2,645	△1,520
その他の包括利益累計額合計	△1,762	△648
非支配株主持分	63	129
純資産合計	81,515	87,985
負債純資産合計	103,171	108,221

## ②【連結損益計算書及び連結包括利益計算書】

## 【連結損益計算書】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 平成28年1月1日 至 平成28年12月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年1月1日 至 平成29年12月31日)
売上高	83,290	83,769
売上原価	※1, ※2 64,610	※1, ※2 62,732
売上総利益	18,679	21,036
販売費及び一般管理費	※3, ※4 10,602	※3, ※4 11,430
営業利益	8,077	9,605
営業外収益		
受取利息及び配当金	91	74
為替差益	-	170
その他	36	46
営業外収益合計	128	291
営業外費用		
為替差損	197	-
その他	48	10
営業外費用合計	246	10
経常利益	7,959	9,886
特別利益		
固定資産売却益	0	20
投資有価証券売却益	47	7
特別利益合計	47	28
特別損失		
固定資産除売却損	1	15
ゴルフ会員権評価損	64	-
特別損失合計	65	15
税金等調整前当期純利益	7,941	9,899
法人税、住民税及び事業税	2,087	2,073
法人税等調整額	292	80
法人税等合計	2,380	2,154
当期純利益	5,561	7,745
非支配株主に帰属する当期純利益	7	6
親会社株主に帰属する当期純利益	5,553	7,739



【連結包括利益計算書】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 平成28年1月1日 至 平成28年12月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年1月1日 至 平成29年12月31日)
当期純利益	5,561	7,745
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△60	144
繰延ヘッジ損益	△40	40
為替換算調整勘定	△112	△195
退職給付に係る調整額	78	1,125
その他の包括利益合計	※1 △135	※1 1,114
包括利益	5,426	8,860
(内訳)		
親会社株主に係る包括利益	5,418	8,853
非支配株主に係る包括利益	7	6

③【連結株主資本等変動計算書】

前連結会計年度(自 平成28年1月1日 至 平成28年12月31日)

(単位：百万円)

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	4,969	9,595	68,125	△2,578	80,111
当期変動額					
剰余金の配当			△2,449		△2,449
親会社株主に帰属する当期純利益			5,553		5,553
自己株式の取得				△0	△0
自己株式の処分		△0		0	0
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）					—
当期変動額合計	—	△0	3,104	△0	3,103
当期末残高	4,969	9,595	71,229	△2,579	83,215

	その他の包括利益累計額					非支配株主持分	純資産合計
	その他有価証券 評価差額金	繰延ヘッジ損益	為替換算調整勘 定	退職給付に係る 調整累計額	その他の包括利 益累計額合計		
当期首残高	264	-	832	△2,723	△1,627	55	78,539
当期変動額							
剰余金の配当					—		△2,449
親会社株主に帰属する当期純利益					—		5,553
自己株式の取得					—		△0
自己株式の処分					—		0
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	△60	△40	△112	78	△135	7	△127
当期変動額合計	△60	△40	△112	78	△135	7	2,976
当期末残高	203	△40	719	△2,645	△1,762	63	81,515

当連結会計年度(自 平成29年1月1日 至 平成29年12月31日)

(単位：百万円)

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	4,969	9,595	71,229	△2,579	83,215
当期変動額					
剰余金の配当			△2,448		△2,448
親会社株主に帰属する当期純利益			7,739		7,739
自己株式の取得				△1	△1
自己株式の処分		0		0	0
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)					—
当期変動額合計	—	0	5,290	△1	5,288
当期末残高	4,969	9,595	76,519	△2,580	88,503

	その他の包括利益累計額					非支配株主持分	純資産合計
	その他有価証券 評価差額金	繰延ヘッジ損益	為替換算調整勘定	退職給付に係る 調整累計額	その他の包括利 益累計額合計		
当期首残高	203	△40	719	△2,645	△1,762	63	81,515
当期変動額							
剰余金の配当					—		△2,448
親会社株主に帰属する当期純利益					—		7,739
自己株式の取得					—		△1
自己株式の処分					—		0
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)	144	40	△195	1,125	1,114	66	1,180
当期変動額合計	144	40	△195	1,125	1,114	66	6,469
当期末残高	348	—	524	△1,520	△648	129	87,985

## ④【連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 平成28年1月1日 至 平成28年12月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年1月1日 至 平成29年12月31日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前当期純利益	7,941	9,899
減価償却費	3,356	3,317
賞与引当金の増減額 (△は減少)	5	△23
役員賞与引当金の増減額 (△は減少)	△5	5
受注損失引当金の増減額 (△は減少)	123	△176
退職給付に係る負債の増減額 (△は減少)	△1,486	△2,188
受取利息及び受取配当金	△91	△74
有形固定資産除売却損益 (△は益)	1	△5
投資有価証券売却及び評価損益 (△は益)	△47	△7
売上債権の増減額 (△は増加)	△983	△1,039
たな卸資産の増減額 (△は増加)	△87	△798
仕入債務の増減額 (△は減少)	133	876
その他	1,618	1,359
小計	10,476	11,143
利息及び配当金の受取額	92	76
法人税等の支払額	△3,012	△1,540
営業活動によるキャッシュ・フロー	7,556	9,679
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
有形固定資産の取得による支出	△3,078	△1,583
有形固定資産の売却による収入	1	86
無形固定資産の取得による支出	△381	△212
投資有価証券の取得による支出	△1	△266
投資有価証券の売却による収入	150	7
貸付けによる支出	△5,000	-
貸付金の回収による収入	-	5,000
その他	243	△136
投資活動によるキャッシュ・フロー	△8,065	2,895
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
配当金の支払額	△2,446	△2,449
その他	△0	58
財務活動によるキャッシュ・フロー	△2,447	△2,391
現金及び現金同等物に係る換算差額	△192	△90
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△3,148	10,093
現金及び現金同等物の期首残高	19,189	16,040
現金及び現金同等物の期末残高	※1 16,040	※1 26,134

## 【注記事項】

(連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項)

### 1. 連結の範囲に関する事項

連結子会社の数 10社

主要な連結子会社の名称

Canon Electronics (Malaysia) Sdn. Bhd.

Canon Electronics Vietnam Co., Ltd.

キヤノン電子ビジネスシステムズ株式会社

キヤノンエスキースシステム株式会社

キヤノン電子テクノロジー株式会社

なお、当連結会計年度において、新世代小型ロケット開発企画株式会社を設立したため、連結の範囲に含めております。

### 2. 持分法の適用に関する事項

該当事項はありません。

### 3. 連結子会社の事業年度等に関する事項

連結子会社の決算日は、連結決算日と一致しております。

### 4. 会計方針に関する事項

#### (1) 重要な資産の評価基準及び評価方法

##### ① 有価証券

その他有価証券

##### (a) 時価のあるもの

連結決算日の市場価格等に基づく時価法

(評価差額は、全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定。)

##### (b) 時価のないもの

移動平均法による原価法

##### ② デリバティブ取引により生じる債権及び債務

時価法

##### ③ たな卸資産

通常の販売目的で保有するたな卸資産

評価基準は原価法(収益性の低下による簿価切下げの方法)によっております。

##### (a) 製品・仕掛品

主として総平均法

ただし、一部の連結子会社は個別法によっております。

##### (b) 商品・原材料・貯蔵品・ソフトウェア使用許諾権

主として移動平均法

ただし、一部の連結子会社は個別法によっております。

## (2) 重要な減価償却資産の減価償却の方法

### ① 有形固定資産(リース資産を除く)

当社及び一部の国内連結子会社は定率法。

但し、平成10年4月1日以降に取得した建物(附属設備を除く。)につきましては、定額法によっております。また、在外連結子会社につきましては、定額法によっております。

なお、主な耐用年数は、次のとおりであります。

建物及び構築物 3～60年

機械装置及び運搬具 2～17年

工具、器具及び備品 2～20年

また、平成19年3月31日以前に取得したものについては、償却可能限度額まで償却が終了した翌年から5年間で均等償却する方法によっております。

### ② 無形固定資産(リース資産を除く)

#### (a) ソフトウェア

自社利用のソフトウェアは社内における利用可能期間(3～5年)に基づく定額法、市場販売目的のソフトウェアは見込販売収益に基づく償却額と残存有効期間(3年)に基づく均等配分額とを比較し、いずれか大きい額を計上する方法によっております。

#### (b) その他

定額法

### ③ リース資産

所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額をゼロとする定額法によっております。

## (3) 重要な引当金の計上基準

### ① 貸倒引当金

債権の貸倒による損失に備えるため、当社及び国内連結子会社は一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額を計上しております。また、在外連結子会社は特定の債権について回収不能見込額を計上しております。

### ② 賞与引当金

従業員に対する賞与の支出に備えるため、支給見込額に基づき計上しております。

### ③ 役員賞与引当金

役員に対する賞与の支出に備えるため、支給見込額に基づき計上しております。

### ④ 受注損失引当金

一部の国内連結子会社は、受注案件に係る将来の損失に備えるため、当連結会計年度末における受注案件のうち、損失の発生が見込まれ、かつその金額を合理的に見積ることができるものについて、その損失見込額を計上しております。

### ⑤ 役員退職慰労引当金

役員に対する退職慰労金の支出に備えるため、内部規程に基づく支給見込額を計上しております。

## (4) 退職給付に係る会計処理の方法

### ① 退職給付見込額の期間帰属方法

退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当連結会計年度末までの期間に帰属させる方法については、給付算定式基準によっております。

### ② 数理計算上の差異及び過去勤務費用の費用処理方法

数理計算上の差異は、各連結会計年度の発生時における従業員の平均残存勤務期間による定額法により按分した額を、それぞれ発生の翌連結会計年度より費用処理しております。

また、過去勤務費用は、その発生時における従業員の平均残存勤務期間による定額法により、費用処理しております。

(5) 重要な収益及び費用の計上基準

完成工事高及び完成工事原価の計上基準

当連結会計年度末までの進捗部分について、成果の確実性が認められる工事については工事進行基準（工事の進捗率の見積りは原価比例法）を適用し、その他の工事については工事完成基準を適用しております。

(6) 重要な外貨建の資産又は負債の本邦通貨への換算の基準

外貨建金銭債権債務は、連結決算日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は損益として処理しております。なお、在外連結子会社の資産、負債、収益及び費用は、連結決算日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は純資産の部における為替換算調整勘定に含めております。

(7) 重要なヘッジ会計の方法

① ヘッジ会計の方法

繰延ヘッジ処理によっております。

② ヘッジ手段とヘッジ対象

イ)ヘッジ手段

為替予約

ロ)ヘッジ対象

予定取引に係る外貨建売上債権等

③ ヘッジ方針

内部規程に基づき、外貨建取引の為替変動リスクを回避する目的に必要な範囲内で為替予約取引を行っております。

④ ヘッジの有効性評価の方法

ヘッジ対象と重要な条件が同一であるヘッジ手段を用いているため、ヘッジ開始時およびその後も継続して双方の相場変動が相殺されておりますので、その確認をもって有効性の評価としております。

(8) 連結キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲

手許現金、要求払預金及び取得日から3ヶ月以内に満期日の到来する流動性の高い、容易に換金可能であり、かつ、価値の変動について僅少なリスクしか負わない短期的な投資であります。

(9) その他連結財務諸表作成のための重要な事項

消費税等の会計処理方法

消費税等の会計処理は税抜方式によっております。

(表示方法の変更)

(連結損益計算書関係)

前連結会計年度において、「特別利益」の「その他」に含めていた「固定資産売却益」は、金額の重要性が増したため、当連結会計年度より独立掲記することとしております。この表示方法の変更を反映させるため、前連結会計年度の連結財務諸表の組替えを行っております。

この結果、前連結会計年度の連結損益計算書において、「特別利益」の「その他」に表示していた0百万円は、「固定資産売却益」0百万円として組み替えております。

(追加情報)

(繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針の適用)

「繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針」（企業会計基準適用指針第26号 平成28年3月28日）を当連結会計年度から適用しております。

(連結貸借対照表関係)

1 保証債務

従業員の金融機関等からの借入に対して、債務保証を行っております。

	前連結会計年度 (平成28年12月31日)		当連結会計年度 (平成29年12月31日)
従業員の借入金(住宅資金)	45百万円	従業員の借入金(住宅資金)	34百万円

※2 仕掛品及び受注損失引当金の表示

損失が見込まれる工事契約に係る仕掛品と受注損失引当金は、相殺せずに両建てで表示しております。  
受注損失引当金に対応するたな卸資産の額

	前連結会計年度 (平成28年12月31日)	当連結会計年度 (平成29年12月31日)
仕掛品	151百万円	4百万円

(連結損益計算書関係)

※1 通常の販売目的で保有するたな卸資産の収益性の低下による簿価切下額(△は戻入額)は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 平成28年1月1日 至 平成28年12月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年1月1日 至 平成29年12月31日)
売上原価	0百万円	△0百万円

※2 売上原価に含まれている受注損失引当金繰入額は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 平成28年1月1日 至 平成28年12月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年1月1日 至 平成29年12月31日)
	126百万円	68百万円

※3 販売費及び一般管理費として計上した金額の主要な費目は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 平成28年1月1日 至 平成28年12月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年1月1日 至 平成29年12月31日)
給与手当及び賞与	2,281百万円	2,326百万円
役員報酬	494百万円	512百万円
賞与引当金繰入額	56百万円	62百万円
役員賞与引当金繰入額	27百万円	32百万円
退職給付費用	159百万円	165百万円
福利厚生費	667百万円	672百万円
支払運賃	211百万円	216百万円
賃借料	75百万円	66百万円
減価償却費	625百万円	556百万円
広告宣伝費	90百万円	106百万円
特許関係費	762百万円	682百万円
研究開発費	4,010百万円	4,600百万円
貸倒引当金繰入額	△0百万円	△0百万円

※4 一般管理費に含まれる研究開発費は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 平成28年1月1日 至 平成28年12月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年1月1日 至 平成29年12月31日)
	4,010百万円	4,600百万円



(連結包括利益計算書関係)

※1 その他の包括利益に係る組替調整額及び税効果額

	前連結会計年度 (自 平成28年1月1日 至 平成28年12月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年1月1日 至 平成29年12月31日)
その他有価証券評価差額金		
当期発生額	△48百万円	217百万円
組替調整額	△47百万円	△7百万円
税効果調整前	△95百万円	209百万円
税効果額	35百万円	△65百万円
その他有価証券評価差額金	△60百万円	144百万円
繰延ヘッジ損益		
当期発生額	△58百万円	一百万円
組替調整額	一百万円	58百万円
税効果調整前	△58百万円	58百万円
税効果額	17百万円	△17百万円
繰延ヘッジ損益	△40百万円	40百万円
為替換算調整勘定		
当期発生額	△112百万円	△195百万円
退職給付に係る調整額		
当期発生額	△386百万円	903百万円
組替調整額	607百万円	653百万円
税効果調整前	220百万円	1,556百万円
税効果額	△142百万円	△431百万円
退職給付に係る調整額	78百万円	1,125百万円
その他の包括利益合計	△135百万円	1,114百万円

(連結株主資本等変動計算書関係)

前連結会計年度(自 平成28年1月1日 至 平成28年12月31日)

1. 発行済株式に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首	増加	減少	当連結会計年度末
普通株式(株)	42,206,540	—	—	42,206,540

2. 自己株式に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首	増加	減少	当連結会計年度末
普通株式(株)	1,389,673	483	50	1,390,106

(変動事由の概要)

増加数の主な内訳は、次のとおりであります。

単元未満株式の買取りによる増加 483株

減少数の主な内訳は、次のとおりであります。

単元未満株式の売渡しによる減少 50株

3. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり配当額 (円)	基準日	効力発生日
平成28年3月29日 定時株主総会	普通株式	1,224	30	平成27年12月31日	平成28年3月30日
平成28年7月25日 取締役会	普通株式	1,224	30	平成28年6月30日	平成28年8月26日

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

決議	株式の種類	配当の原資	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
平成29年3月29日 定時株主総会	普通株式	利益剰余金	1,224	30	平成28年12月31日	平成29年3月30日

当連結会計年度(自 平成29年1月1日 至 平成29年12月31日)

1. 発行済株式に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首	増加	減少	当連結会計年度末
普通株式(株)	42,206,540	—	—	42,206,540

2. 自己株式に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首	増加	減少	当連結会計年度末
普通株式(株)	1,390,106	770	30	1,390,846

(変動事由の概要)

増加数の主な内訳は、次のとおりであります。

単元未満株式の買取りによる増加 770株

減少数の主な内訳は、次のとおりであります。

単元未満株式の売渡しによる減少 30株

3. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり配当額 (円)	基準日	効力発生日
平成29年3月29日 定時株主総会	普通株式	1,224	30	平成28年12月31日	平成29年3月30日
平成29年7月26日 取締役会	普通株式	1,224	30	平成29年6月30日	平成29年8月28日

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

決議	株式の種類	配当の原資	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
平成30年3月28日 定時株主総会	普通株式	利益剰余金	1,632	40	平成29年12月31日	平成30年3月29日

(連結キャッシュ・フロー計算書関係)

※1 現金及び現金同等物の期末残高と連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 平成28年1月1日 至 平成28年12月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年1月1日 至 平成29年12月31日)
現金及び預金	16,270百万円	26,434百万円
預入期間が3か月を超える定期預金	△230百万円	△300百万円
現金及び現金同等物	16,040百万円	26,134百万円

(リース取引関係)

1. ファイナンス・リース取引

(借主側)

重要性が乏しいため、記載を省略しております。

(貸主側)

重要性が乏しいため、記載を省略しております。

2. 転リース取引に該当し、かつ、利息相当額控除前の金額で連結貸借対照表に計上している額

(1) リース投資資産

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成28年12月31日)	当連結会計年度 (平成29年12月31日)
流動資産	291	221

(2) リース債務

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成28年12月31日)	当連結会計年度 (平成29年12月31日)
流動負債	105	101
固定負債	175	113

## (金融商品関係)

### 1. 金融商品の状況に関する事項

#### (1) 金融商品に対する取組方針

当社グループは、資金運用については短期的な預金等に限定しております。デリバティブは、後述するリスクを回避するために利用しており投機的な取引は行わない方針であります。

#### (2) 金融商品の内容及びそのリスク

営業債権である受取手形及び売掛金は、顧客の信用リスクに晒されております。また、グローバルに事業展開していることにより外貨建ての営業債権は、為替の変動リスクに晒されていますが原則として外貨建ての営業債務をネットしたポジションについて先物為替予約を利用しております。短期貸付金は、親会社に対して貸付を行っているものであります。投資有価証券は、主に株式であり、市場価格の変動リスクに晒されております。

営業債務である買掛金及び電子記録債務は、ほとんど1年以内の支払期日であります。また、その一部には、原料等の輸入に伴う外貨建てのものがあり、為替の変動リスクに晒されていますが、恒常的に同じ外貨建ての売掛金残高の範囲内にあります。

デリバティブ取引は、外貨建ての債権債務に係る為替の変動リスクに対するヘッジ取引を目的とする為替予約であります。なお、ヘッジ会計に関するヘッジ手段とヘッジ対象、ヘッジ方針、ヘッジの有効性の評価方法については、前述の連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項「4. 会計方針に関する事項 (7) 重要なヘッジ会計の方法」をご参照ください。

#### (3) 金融商品に係るリスク管理体制

##### ①信用リスク（取引先の契約不履行等に係るリスク）の管理

当社は内部規程に従い、営業債権について、各事業部門における管理部門が主要な取引先の状況を定期的にモニタリングし、取引相手ごとに期日及び残高を管理するとともに、財務状況等の悪化等による回収懸念の早期把握や軽減を図っております。連結子会社についても、当社の内部規程に準じて、同様の管理を行っております。

投資有価証券のうち上場株式については四半期ごとに時価の把握を行い、非上場株式についても定期的に発行体の財務状況等の把握を行っております。

デリバティブ取引の利用にあたっては、格付の高い金融機関とのみ取引を行っております。

##### ②市場リスク（為替や金利等の変動リスク）の管理

当社は、外貨建ての営業債権債務について、通貨別月別に把握された為替の変動リスクに対して、原則として先物為替予約を利用してヘッジしております。なお、為替相場の状況により、1年を限度として、輸出に係る予定取引により確実に発生すると見込まれる外貨建て営業債権に対する先物為替予約を行っております。

投資有価証券については、定期的に時価や発行体（取引先企業）の財務状況等を把握し、また満期保有目的の債券以外のものについては、取引企業との関係を勘案して保有状況を継続的に見直しております。

#### (4) 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

金融商品の時価には、市場価格に基づく価格のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価格が含まれております。当該価格の算定においては変動要因を織り込んでいるため、異なる前提条件等を採用することにより、当該価格が変動することもあります。

## 2. 金融商品の時価等に関する事項

連結貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。なお、時価を把握することが極めて困難と認められるものは含まれておりません(注2)をご参照ください。)

前連結会計年度(平成28年12月31日)

(単位：百万円)

	連結貸借対照表計上額	時価	差額
(1)現金及び預金	16,270	16,270	—
(2)受取手形及び売掛金	22,394	22,394	—
(3)短期貸付金	20,000	20,000	—
(4)投資有価証券			
其他有価証券	563	563	—
資産計	59,229	59,229	—
(1)買掛金	12,105	12,105	—
負債計	12,105	12,105	—

当連結会計年度(平成29年12月31日)

(単位：百万円)

	連結貸借対照表計上額	時価	差額
(1)現金及び預金	26,434	26,434	—
(2)受取手形及び売掛金	23,393	23,393	—
(3)短期貸付金	15,000	15,000	—
(4)投資有価証券			
其他有価証券	1,039	1,039	—
資産計	65,868	65,868	—
(1)買掛金	10,947	10,947	—
(2)電子記録債務	2,006	2,006	—
負債計	12,953	12,953	—

(注1) 金融商品の時価の算定方法及び有価証券に関する事項

### 資 産

(1)現金及び預金、(2)受取手形及び売掛金、(3)短期貸付金

これらはすべて短期で決済されるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

(4)投資有価証券

時価について、株式は取引所の価格によっております。

### 負 債

(1)買掛金、(2)電子記録債務

これらはすべて短期で決済されるため、時価は帳簿価額に近似していることから、当該帳簿価額によっております。

(注2) 時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品の連結貸借対照表計上額

(単位：百万円)

区分	平成28年12月31日	平成29年12月31日
非上場株式	1	1
その他	0	0

上記については、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められるため、「(4)投資有価証券」には含めておりません。

(注3) 金銭債権及び満期のある有価証券の連結決算日後の償還予定額  
前連結会計年度(平成28年12月31日)

(単位：百万円)

区分	1年以内	1年超 5年以内	5年超 10年以内	10年超
現金及び預金	16,270	—	—	—
受取手形及び売掛金	22,394	—	—	—
短期貸付金	20,000	—	—	—
合計	58,665	—	—	—

当連結会計年度(平成29年12月31日)

(単位：百万円)

区分	1年以内	1年超 5年以内	5年超 10年以内	10年超
現金及び預金	26,434	—	—	—
受取手形及び売掛金	23,393	—	—	—
短期貸付金	15,000	—	—	—
合計	64,828	—	—	—

(有価証券関係)

1. その他有価証券

前連結会計年度(平成28年12月31日)

(単位：百万円)

区分	連結貸借対照表計上額	取得原価	差額
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの			
株式	562	274	287
小計	562	274	287
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの			
株式	1	1	△0
小計	1	1	△0
合計	563	276	287

(注) 非上場株式等(連結貸借対照表計上額1百万円)については、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、上表の「その他有価証券」に含めておりません。

当連結会計年度(平成29年12月31日)

(単位：百万円)

区分	連結貸借対照表計上額	取得原価	差額
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの			
株式	781	277	503
小計	781	277	503
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの			
株式	258	264	△6
小計	258	264	△6
合計	1,039	542	497

(注) 非上場株式等(連結貸借対照表計上額1百万円)については、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、上表の「その他有価証券」に含めておりません。



2. 連結会計年度中に売却したその他有価証券

前連結会計年度(自 平成28年1月1日 至 平成28年12月31日)

区分	売却額 (百万円)	売却益の合計額 (百万円)	売却損の合計額 (百万円)
株式	150	47	—
合計	150	47	—

当連結会計年度(自 平成29年1月1日 至 平成29年12月31日)

区分	売却額 (百万円)	売却益の合計額 (百万円)	売却損の合計額 (百万円)
株式	7	7	—
合計	7	7	—

(デリバティブ取引関係)

1. ヘッジ会計が適用されていないデリバティブ取引

前連結会計年度(平成28年12月31日)

重要性が乏しいため、記載を省略しております。

当連結会計年度(平成29年12月31日)

期末残高がないため、該当事項はありません。

2. ヘッジ会計が適用されているデリバティブ取引

前連結会計年度(平成28年12月31日)

重要性が乏しいため、記載を省略しております。

当連結会計年度(平成29年12月31日)

期末残高がないため、該当事項はありません。

(退職給付関係)

1. 採用している退職給付制度の概要

当社及び一部の連結子会社は、確定拠出型年金制度、市場金利連動型年金（類似キャッシュバランスプラン）制度及び退職一時金制度を設けております。なお、一部の連結子会社が有する退職一時金制度は、簡便法により退職給付に係る負債及び退職給付費用を計算しております。

2. 確定給付制度

(1) 退職給付債務の期首残高と期末残高の調整表

	(百万円)	
	前連結会計年度 (自 平成28年1月1日 至 平成28年12月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年1月1日 至 平成29年12月31日)
退職給付債務の期首残高	23,518	23,164
勤務費用	506	530
利息費用	186	113
数理計算上の差異の発生額	11	△451
退職給付の支払額	△1,046	△1,225
その他	△11	2
退職給付債務の期末残高	23,164	22,132

(注) 簡便法を適用している連結子会社の退職給付費用は、「勤務費用」に計上しております。

(2) 年金資産の期首残高と期末残高の調整表

	(百万円)	
	前連結会計年度 (自 平成28年1月1日 至 平成28年12月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年1月1日 至 平成29年12月31日)
年金資産の期首残高	17,538	18,285
期待運用収益	648	676
数理計算上の差異の発生額	△375	451
事業主からの拠出額	1,459	1,447
退職給付の支払額	△985	△1,150
年金資産の期末残高	18,285	19,711

(3) 退職給付債務及び年金資産の期末残高と連結貸借対照表に計上された退職給付に係る負債及び退職給付に係る資産の調整表

	(百万円)	
	前連結会計年度 (平成28年12月31日)	当連結会計年度 (平成29年12月31日)
積立型制度の退職給付債務	22,228	21,110
年金資産	△18,285	△19,711
	3,942	1,398
非積立型制度の退職給付債務	935	1,022
連結貸借対照表に計上された負債と資産の純額	4,878	2,421
退職給付に係る負債	4,878	2,421
退職給付に係る資産	—	—
連結貸借対照表に計上された負債と資産の純額	4,878	2,421

(注) 簡便法を適用した制度を含みます。

## (4) 退職給付費用及びその内訳項目の金額

	(百万円)	
	前連結会計年度 (自 平成28年1月1日 至 平成28年12月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年1月1日 至 平成29年12月31日)
勤務費用	506	530
利息費用	186	113
期待運用収益	△648	△676
数理計算上の差異の費用処理額	720	790
過去勤務費用の費用処理額	△112	△136
確定給付制度に係る退職給付費用	652	620

(注) 簡便法を適用している連結子会社の退職給付費用は、「勤務費用」に計上しております。

## (5) 退職給付に係る調整額

退職給付に係る調整額に計上した項目（税効果控除前）の内訳は次のとおりであります。

	(百万円)	
	前連結会計年度 (自 平成28年1月1日 至 平成28年12月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年1月1日 至 平成29年12月31日)
過去勤務費用	△112	△136
数理計算上の差異	333	1,693
合計	220	1,556

## (6) 退職給付に係る調整累計額

退職給付に係る調整累計額に計上した項目（税効果控除前）の内訳は次のとおりであります。

	(百万円)	
	前連結会計年度 (平成28年12月31日)	当連結会計年度 (平成29年12月31日)
未認識過去勤務費用	△1,266	△1,129
未認識数理計算上の差異	4,988	3,291
合計	3,722	2,162

## (7) 年金資産に関する事項

## ①年金資産の主な内訳

年金資産合計に対する主な分類ごとの比率は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成28年12月31日)	当連結会計年度 (平成29年12月31日)
債券	45%	41%
株式	21%	23%
現金及び預金	13%	16%
生保一般勘定	8%	7%
ヘッジファンド	7%	4%
その他	6%	9%
合計	100%	100%

## ②長期期待運用収益率の設定方法

年金資産の長期期待運用収益率を決定するため、現在及び予想される年金資産の配分と、年金資産を構成する多様な資産からの現在及び将来期待される長期の収益率を考慮しております。

## (8) 数理計算上の計算基礎に関する事項

主要な数理計算上の計算基礎

	前連結会計年度 (自 平成28年1月1日 至 平成28年12月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年1月1日 至 平成29年12月31日)
割引率	主として0.5%	主として0.4%
長期期待運用収益率	3.7%	3.7%

(注) 退職給付債務の計算は、給付算定式基準により将来のポイント累計を織込まない方法を採用しているため、予想昇給率は記載しておりません。

## 3. 確定拠出制度

当社及び連結子会社の確定拠出制度への要拠出額は、前連結会計年度208百万円、当連結会計年度211百万円であります。

(税効果会計関係)

1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	前連結会計年度 (平成28年12月31日)	当連結会計年度 (平成29年12月31日)
(繰延税金資産)		
未払事業税・事業所税	81百万円	101百万円
賞与引当金	100百万円	98百万円
たな卸資産評価損	1,166百万円	1,155百万円
退職給付に係る負債	1,389百万円	678百万円
減価償却超過額	369百万円	441百万円
少額減価償却資産償却超過額	33百万円	29百万円
ゴルフ会員権評価損	18百万円	20百万円
役員退職慰労引当金	69百万円	70百万円
投資有価証券評価損	480百万円	419百万円
繰越欠損金	635百万円	634百万円
その他	175百万円	116百万円
繰延税金資産小計	4,519百万円	3,766百万円
評価性引当額	△2,072百万円	△1,876百万円
繰延税金資産合計	2,447百万円	1,890百万円
(繰延税金負債)		
その他有価証券評価差額金	△83百万円	△149百万円
在外子会社減価償却費	△34百万円	△36百万円
その他	△46百万円	△20百万円
繰延税金負債合計	△165百万円	△206百万円
繰延税金資産純額	2,282百万円	1,683百万円

2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との差異の原因となった主な項目別の内訳

	前連結会計年度 (平成28年12月31日)	当連結会計年度 (平成29年12月31日)
法定実効税率	32.0%	30.0%
(調整)		
税率変更による期末繰延税金資産の減額修正	1.0%	—
試験研究費税額控除	△6.6%	△7.3%
評価性引当額の増減	△1.9%	△0.5%
永久に損金に算入されない項目	1.0%	0.2%
連結子会社の税率差異	3.3%	△0.4%
その他	1.2%	△0.2%
税効果会計適用後の法人税等の負担率	30.0%	21.8%

(企業結合等関係)

該当事項はありません。

(資産除去債務関係)

重要性が乏しいため、記載を省略しております。

(賃貸等不動産関係)

重要性が乏しいため、記載を省略しております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

1. 報告セグメントの概要

当社グループの報告セグメントは、当社グループの構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が経営資源の配分の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものであります。

当社グループは、製品の種類、製造方法、販売市場の類似性を基に「コンポーネント」、「電子情報機器」の2つを報告セグメントとしております。

「コンポーネント」は、主にセットメーカー向けのユニット部品を製造及び販売しております。「電子情報機器」は、主に情報システム機器の最終消費者向け製品を組立製造及び販売しております。

なお、各報告セグメントの主な製品及びサービスは以下のとおりです。

コンポーネント・・・シャッターユニット、絞りユニット、レーザースキャナーユニット

電子情報機器・・・ドキュメントスキャナー、ハンディターミナル、レーザープリンター

2. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額の算定方法

報告されている事業セグメントの会計処理の方法は、「連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項」における記載と概ね同一であります。

報告セグメントの利益は、営業利益ベースの数値であります。セグメント間の内部収益及び振替高は市場実勢価格に基づいております。

3. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額に関する情報

前連結会計年度(自 平成28年1月1日 至 平成28年12月31日)

(単位：百万円)

	報告セグメント			その他 (注1)	合計	調整額 (注2)	連結財務諸表 計上額 (注4)
	コンポーネント	電子情報機器	計				
売上高							
外部顧客への売上高	44,181	30,246	74,428	8,862	83,290	—	83,290
セグメント間の内部 売上高又は振替高	158	624	782	343	1,126	△1,126	—
計	44,340	30,870	75,211	9,205	84,417	△1,126	83,290
セグメント利益	6,890	3,300	10,191	380	10,571	△2,493	8,077
セグメント資産	22,804	16,698	39,502	8,231	47,734	55,436	103,171
その他の項目							
減価償却費(注3)	2,041	425	2,466	283	2,749	606	3,356
有形固定資産及び 無形固定資産の増加額 (注3)	1,549	506	2,056	844	2,901	431	3,332

(注) 1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、主にソフトウェアの開発・販売、ITソリューション等を含んでおります。

2. 調整額は、以下のとおりであります。

(1) セグメント利益の調整額は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

(2) セグメント資産の調整額は、主に報告セグメントに帰属しない全社資産であります。

3. 減価償却費及び有形固定資産及び無形固定資産の増加額には長期前払費用が含まれております。

4. セグメント利益は、連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

当連結会計年度(自 平成29年1月1日 至 平成29年12月31日)

(単位：百万円)

	報告セグメント			その他 (注1)	合計	調整額 (注2)	連結財務諸表 計上額 (注4)
	コンポーネント	電子情報機器	計				
売上高							
外部顧客への売上高	47,650	26,495	74,145	9,623	83,769	—	83,769
セグメント間の内部 売上高又は振替高	208	708	916	551	1,468	△1,468	—
計	47,858	27,204	75,062	10,174	85,237	△1,468	83,769
セグメント利益	8,437	3,818	12,256	456	12,712	△3,106	9,605
セグメント資産	24,120	15,418	39,539	7,876	47,415	60,805	108,221
その他の項目							
減価償却費(注3)	1,929	520	2,450	277	2,727	589	3,317
有形固定資産及び 無形固定資産の増加額 (注3)	994	532	1,526	46	1,572	319	1,892

(注) 1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、主にソフトウェアの開発・販売、ITソリューション等を含んでおります。

2. 調整額は、以下のとおりであります。

(1) セグメント利益の調整額は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

(2) セグメント資産の調整額は、主に報告セグメントに帰属しない全社資産であります。

3. 減価償却費及び有形固定資産及び無形固定資産の増加額には長期前払費用が含まれております。

4. セグメント利益は、連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

【関連情報】

前連結会計年度(自 平成28年1月1日 至 平成28年12月31日)

1. 製品及びサービスごとの情報

セグメント情報に同様の情報を開示しているため、記載を省略しております。

2. 地域ごとの情報

(1) 売上高

(単位：百万円)

日本	北米	欧州	アジア他	合計
66,460	4,455	4,033	8,341	83,290

(注) 売上高は顧客の所在地を基礎とし、国又は地域に分類しております。

(2) 有形固定資産

本邦に所在している有形固定資産の金額が連結貸借対照表の有形固定資産の金額の90%を超えるため記載を省略しております。

3. 主要な顧客ごとの情報

(単位：百万円)

顧客の名称又は氏名	売上高	関連するセグメント名
キヤノン株式会社	46,348	コンポーネント、電子情報機器

当連結会計年度(自 平成29年1月1日 至 平成29年12月31日)

1. 製品及びサービスごとの情報

セグメント情報に同様の情報を開示しているため、記載を省略しております。

2. 地域ごとの情報

(1) 売上高

(単位：百万円)

日本	北米	欧州	アジア他	合計
63,449	4,783	4,612	10,923	83,769

(注) 売上高は顧客の所在地を基礎とし、国又は地域に分類しております。

(2) 有形固定資産

本邦に所在している有形固定資産の金額が連結貸借対照表の有形固定資産の金額の90%を超えるため記載を省略しております。

3. 主要な顧客ごとの情報

(単位：百万円)

顧客の名称又は氏名	売上高	関連するセグメント名
キヤノン株式会社	42,137	コンポーネント、電子情報機器

【報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報】

該当事項はありません。

【報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報】

該当事項はありません。

【報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報】

該当事項はありません。

【関連当事者情報】

1. 関連当事者との取引

(1) 連結財務諸表提出会社と関連当事者の取引

(ア) 連結財務諸表提出会社の親会社及び主要株主(会社等に限る)等

前連結会計年度(自 平成28年1月1日 至 平成28年12月31日)

種類	会社等の名称 又は氏名	所在地	資本金又は 出資金 (百万円)	事業の内容 又は職業	議決権等 の所有 (被所有) 割合(%)	関連当事者 との関係	取引の内容	取引金額 (百万円)	科目	期末残高 (百万円)
親会社	キヤノン㈱	東京都 大田区	174,762	事務機・カメラ・光学機器 等の製造販売	(被所有) 直接55.4	当社製品の 販売・ 電子部品 等の購入・ 資金の貸付	当社製品の 販売	46,348	売掛金	13,269
							電子部品等 の購入	12,133	買掛金	1,112
							資金の貸付	5,000	短期貸付金	20,000
							貸付利息	38	未収利息	3

当連結会計年度(自 平成29年1月1日 至 平成29年12月31日)

種類	会社等の名称 又は氏名	所在地	資本金又は 出資金 (百万円)	事業の内容 又は職業	議決権等 の所有 (被所有) 割合(%)	関連当事者 との関係	取引の内容	取引金額 (百万円)	科目	期末残高 (百万円)
親会社	キヤノン㈱	東京都 大田区	174,762	事務機・カメラ・光学機器 等の製造販売	(被所有) 直接55.3	当社製品の 販売・ 電子部品 等の購入・ 資金の貸付	当社製品の 販売	42,137	売掛金	13,239
							電子部品等 の購入	8,458	買掛金	922
							資金の回収	5,000	短期貸付金	15,000
							貸付利息	23	未収利息	1

(注) 1. 取引条件及び取引条件の決定方針等

(1) 当社製品の販売については、市場価格、総原価を勘案して当社希望価格を提示し、交渉のうえ決定しております。

(2) 電子部品等の購入については、市場の実勢価格を参考に、価格交渉のうえ決定しております。

(3) 資金の貸付については、市場金利を勘案して合理的に決定しております。

2. 記載金額のうち、取引金額には消費税等を含まず、当該取引に係る債権・債務の期末残高には消費税等を含んでおります。



(イ)連結財務諸表提出会社と同一の親会社を持つ会社等及び連結財務諸表提出会社のその他の関係会社の子会社等  
前連結会計年度(自 平成28年1月1日 至 平成28年12月31日)

種類	会社等の名称 又は氏名	所在地	資本金又は出資金	事業の内容 又は職業	議決権等の所有 (被所有) 割合(%)	関連当事者 との関係	取引の内容	取引金額 (百万円)	科目	期末残高 (百万円)
同一の親会社を持つ会社	Canon U.S.A., Inc.	New York, U.S.A.	US\$204百万	事務機・カメラ等の販売	なし	当社製品の販売	当社製品の販売	4,336	売掛金	1,439
同一の親会社を持つ会社	Canon Europa N.V.	Amstelveen, The Netherlands	EUR360百万	事務機・カメラ等の販売	なし	当社製品の販売	当社製品の販売	4,033	売掛金	1,391
同一の親会社を持つ会社	キヤノンマーケティングジャパン(株)	東京都港区	73,303百万円	事務機・カメラ等の国内販売	(所有) 間接0.0	当社製品の販売	当社製品の販売	3,267	売掛金	1,085

当連結会計年度(自 平成29年1月1日 至 平成29年12月31日)

種類	会社等の名称 又は氏名	所在地	資本金又は出資金	事業の内容 又は職業	議決権等の所有 (被所有) 割合(%)	関連当事者 との関係	取引の内容	取引金額 (百万円)	科目	期末残高 (百万円)
同一の親会社を持つ会社	Canon U.S.A., Inc.	New York, U.S.A.	US\$204百万	事務機・カメラ等の販売	なし	当社製品の販売	当社製品の販売	4,663	売掛金	1,435
同一の親会社を持つ会社	Canon Europa N.V.	Amstelveen, The Netherlands	EUR360百万	事務機・カメラ等の販売	なし	当社製品の販売	当社製品の販売	4,612	売掛金	1,703
同一の親会社を持つ会社	キヤノンマーケティングジャパン(株)	東京都港区	73,303百万円	事務機・カメラ等の国内販売	(所有) 間接0.0	当社製品の販売	当社製品の販売	2,923	売掛金	970

(注) 1. 取引条件及び取引条件の決定方針等

当社製品の販売については、市場価格、総原価を勘案して当社希望価格を提示し、交渉のうえ決定しております。

2. 記載金額のうち、取引金額には消費税等を含まず、当該取引に係る債権の期末残高には消費税等を含んでおります。

(2) 連結財務諸表提出会社の連結子会社と関連当事者との取引

重要性が乏しいため、記載を省略しております。

2. 親会社又は重要な関連会社に関する注記

(1) 親会社情報

キヤノン株式会社(東京証券取引所、名古屋証券取引所、福岡証券取引所、札幌証券取引所及びニューヨーク証券取引所に上場)

(2) 重要な関連会社の要約財務情報

該当事項はありません。

(1株当たり情報)

	前連結会計年度 (自 平成28年1月1日 至 平成28年12月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年1月1日 至 平成29年12月31日)
1株当たり純資産額	1,995.58円	2,152.50円
1株当たり当期純利益金額	136.06円	189.61円

(注) 1. 潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2. 1株当たり純資産額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前連結会計年度 (平成28年12月31日)	当連結会計年度 (平成29年12月31日)
純資産の部の合計額(百万円)	81,515	87,985
純資産の部の合計額から控除する金額(百万円)	63	129
(うち非支配株主持分(百万円))	(63)	(129)
普通株式に係る期末の純資産額(百万円)	81,452	87,855
1株当たり純資産額の算定に用いられた 期末の普通株式の数(株)	40,816,434	40,815,694

3. 1株当たり当期純利益金額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前連結会計年度 (自 平成28年1月1日 至 平成28年12月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年1月1日 至 平成29年12月31日)
親会社株主に帰属する当期純利益(百万円)	5,553	7,739
普通株主に帰属しない金額(百万円)	—	—
普通株式に係る親会社株主に帰属する当期純利益(百万円)	5,553	7,739
普通株式の期中平均株式数(株)	40,816,716	40,816,084

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

⑤【連結附属明細表】

【社債明細表】

該当事項はありません。

【借入金等明細表】

区分	当期首残高 (百万円)	当期末残高 (百万円)	平均利率 (%)	返済期限
1年以内に返済予定のリース債務	106	102	—	—
リース債務(1年以内に返済予定のものを除く。)	179	115	—	平成31年1月～ 平成34年9月
合計	286	218	—	—

(注) 1. リース債務の平均利率については、リース料総額に含まれる利息相当額を控除する前の金額でリース債務を連結貸借対照表に計上しているため、記載しておりません。

2. リース債務(1年以内に返済予定のものを除く。)の連結決算日後5年内における1年ごとの返済予定額の総額

区分	1年超2年以内 (百万円)	2年超3年以内 (百万円)	3年超4年以内 (百万円)	4年超5年以内 (百万円)
リース債務	58	31	21	5

【資産除去債務明細表】

当連結会計年度期首及び当連結会計年度末における資産除去債務の金額が、当連結会計年度期首及び当連結会計年度末における負債及び純資産の合計額の100分の1以下であるため、記載を省略しております。

(2)【その他】

当連結会計年度における四半期情報等

(累計期間)	第1四半期	第2四半期	第3四半期	当連結会計年度
売上高 (百万円)	20,714	41,042	61,279	83,769
税金等調整前四半期(当期)純利益金額 (百万円)	2,946	5,284	7,552	9,899
親会社株主に帰属する四半期(当期)純利益金額 (百万円)	2,143	3,981	5,645	7,739
1株当たり四半期(当期)純利益金額 (円)	52.51	97.55	138.31	189.61

(会計期間)	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期
1株当たり四半期純利益金額 (円)	52.51	45.04	40.76	51.30

## 2 【財務諸表等】

### (1) 【財務諸表】

#### ① 【貸借対照表】

(単位：百万円)

	前事業年度 (平成28年12月31日)	当事業年度 (平成29年12月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	9,225	20,125
受取手形	24	264
売掛金	※2 21,006	※2 21,029
商品及び製品	676	751
仕掛品	1,600	2,226
原材料及び貯蔵品	54	58
短期貸付金	※2 20,840	※2 15,770
未収入金	※2 976	※2 1,196
繰延税金資産	272	259
その他	※2 549	※2 217
流動資産合計	55,225	61,899
固定資産		
有形固定資産		
建物	9,899	9,523
構築物	299	295
機械及び装置	3,044	2,702
車両運搬具	20	34
工具、器具及び備品	2,978	2,867
土地	14,572	14,575
建設仮勘定	264	61
有形固定資産合計	31,079	30,060
無形固定資産		
借地権	57	57
ソフトウェア	487	779
施設利用権	18	17
その他	7	5
無形固定資産合計	571	860
投資その他の資産		
投資有価証券	520	982
関係会社株式	14,511	14,651
長期前払費用	30	26
前払年金費用	-	0
繰延税金資産	1,467	1,218
その他	732	777
投資その他の資産合計	17,261	17,656
固定資産合計	48,912	48,576
資産合計	104,138	110,476

(単位：百万円)

	前事業年度 (平成28年12月31日)	当事業年度 (平成29年12月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	※2 12,125	※2 10,498
電子記録債務	-	2,006
短期借入金	※2 4,000	※2 5,000
未払金	158	224
未払費用	※2 991	※2 1,081
未払法人税等	544	1,191
未払消費税等	229	67
預り金	402	479
賞与引当金	271	269
役員賞与引当金	27	32
その他	265	99
流動負債合計	19,016	20,951
固定負債		
退職給付引当金	931	-
役員退職慰労引当金	230	221
その他	12	14
固定負債合計	1,174	236
負債合計	20,191	21,187
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	4,969	4,969
資本剰余金		
資本準備金	9,595	9,595
その他資本剰余金	0	0
資本剰余金合計	9,595	9,595
利益剰余金		
利益準備金	129	129
その他利益剰余金		
別途積立金	19,000	19,000
繰越利益剰余金	52,679	57,846
利益剰余金合計	71,808	76,975
自己株式	△2,579	△2,580
株主資本合計	83,793	88,959
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	193	329
繰延ヘッジ損益	△40	-
評価・換算差額等合計	153	329
純資産合計	83,946	89,288
負債純資産合計	104,138	110,476

## ② 【損益計算書】

(単位：百万円)

	前事業年度 (自 平成28年1月1日 至 平成28年12月31日)	当事業年度 (自 平成29年1月1日 至 平成29年12月31日)
売上高	※1 74,137	※1 72,146
売上原価	※1 57,214	※1 53,659
売上総利益	16,922	18,487
販売費及び一般管理費	※1, ※2 8,642	※1, ※2 9,435
営業利益	8,280	9,051
営業外収益		
受取利息及び配当金	※1 61	※1 557
為替差益	-	107
その他	※1 21	※1 25
営業外収益合計	83	690
営業外費用		
支払利息	※1 11	※1 6
為替差損	529	-
その他	7	4
営業外費用合計	548	10
経常利益	7,815	9,731
特別利益		
固定資産売却益	0	20
投資有価証券売却益	47	-
特別利益合計	47	20
特別損失		
固定資産除売却損	1	13
ゴルフ会員権評価損	64	-
特別損失合計	65	13
税引前当期純利益	7,796	9,739
法人税、住民税及び事業税	1,866	1,940
法人税等調整額	329	182
法人税等合計	2,195	2,123
当期純利益	5,600	7,616

③【株主資本等変動計算書】

前事業年度(自 平成28年1月1日 至 平成28年12月31日)

(単位：百万円)

	株主資本			
	資本金	資本剰余金		
		資本準備金	その他資本剰余金	資本剰余金合計
当期首残高	4,969	9,595	0	9,595
当期変動額				
剰余金の配当				—
当期純利益				—
自己株式の取得				—
自己株式の処分			△0	△0
株主資本以外の項目 の当期変動額（純額）				—
当期変動額合計	—	—	△0	△0
当期末残高	4,969	9,595	0	9,595

	株主資本					
	利益剰余金				自己株式	株主資本合計
	利益準備金	その他利益剰余金		利益剰余金合計		
		別途積立金	繰越利益剰余金			
当期首残高	129	19,000	49,527	68,656	△2,578	80,642
当期変動額						
剰余金の配当			△2,449	△2,449		△2,449
当期純利益			5,600	5,600		5,600
自己株式の取得				—	△0	△0
自己株式の処分				—	0	0
株主資本以外の項目 の当期変動額（純額）				—		—
当期変動額合計	—	—	3,151	3,151	△0	3,151
当期末残高	129	19,000	52,679	71,808	△2,579	83,793

	評価・換算差額等			純資産合計
	その他有価証券評価差額金	繰延ヘッジ損益	評価・換算差額等合計	
当期首残高	253	—	253	80,896
当期変動額				
剰余金の配当			—	△2,449
当期純利益			—	5,600
自己株式の取得			—	△0
自己株式の処分			—	0
株主資本以外の項目 の当期変動額（純額）	△59	△40	△100	△100
当期変動額合計	△59	△40	△100	3,050
当期末残高	193	△40	153	83,946

当事業年度(自 平成29年1月1日 至 平成29年12月31日)

(単位：百万円)

	株主資本			
	資本金	資本剰余金		
		資本準備金	その他資本剰余金	資本剰余金合計
当期首残高	4,969	9,595	0	9,595
当期変動額				
剰余金の配当				—
当期純利益				—
自己株式の取得				—
自己株式の処分			0	0
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)				—
当期変動額合計	—	—	0	0
当期末残高	4,969	9,595	0	9,595

	株主資本					自己株式	株主資本合計
	利益準備金	利益剰余金			利益剰余金合計		
		その他利益剰余金		利益剰余金合計			
		別途積立金	繰越利益剰余金				
当期首残高	129	19,000	52,679	71,808	△2,579	83,793	
当期変動額							
剰余金の配当			△2,448	△2,448		△2,448	
当期純利益			7,616	7,616		7,616	
自己株式の取得				—	△1	△1	
自己株式の処分				—	0	0	
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)				—		—	
当期変動額合計	—	—	5,167	5,167	△1	5,165	
当期末残高	129	19,000	57,846	76,975	△2,580	88,959	

	評価・換算差額等			純資産合計
	その他有価証券評価差額金	繰延ヘッジ損益	評価・換算差額等合計	
当期首残高	193	△40	153	83,946
当期変動額				
剰余金の配当			—	△2,448
当期純利益			—	7,616
自己株式の取得			—	△1
自己株式の処分			—	0
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)	135	40	175	175
当期変動額合計	135	40	175	5,341
当期末残高	329	—	329	89,288



## 【注記事項】

(重要な会計方針)

### 1. 資産の評価基準及び評価方法

#### (1) 有価証券の評価基準及び評価方法

##### ①子会社株式及び関連会社株式

移動平均法による原価法

##### ②その他有価証券

###### (a) 時価のあるもの

決算日の市場価格等に基づく時価法

(評価差額は、全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定)

###### (b) 時価のないもの

移動平均法による原価法

#### (2) デリバティブの評価基準及び評価方法

時価法

#### (3) たな卸資産の評価基準及び評価方法

通常の販売目的で保有するたな卸資産

評価基準は原価法（収益性の低下による簿価切下げの方法）によっております。

##### ①製品・仕掛品

総平均法

##### ②商品・原材料・貯蔵品

移動平均法

### 2. 固定資産の減価償却の方法

#### (1) 有形固定資産(リース資産を除く)

定率法

但し、平成10年4月1日以降に取得した建物（附属設備を除く。）については、定額法によっております。

なお、主な耐用年数は、次のとおりであります。

建物及び構築物 3～60年

機械及び装置 2～17年

工具、器具及び備品 2～20年

また、平成19年3月31日以前に取得したものについては、償却可能限度額まで償却が終了した翌年から5年間で均等償却する方法によっております。

#### (2) 無形固定資産(リース資産を除く)

##### ①ソフトウェア

自社利用のソフトウェアは社内における利用可能期間（3～5年）に基づく定額法、市場販売目的のソフトウェアは見込販売収益に基づく償却額と残存有効期間（3年）に基づく均等配分額とを比較し、いずれか大きい額を計上する方法によっております。

##### ②その他

定額法

#### (3) リース資産

所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額をゼロとする定額法によっております。

### 3. 引当金の計上基準

#### (1) 貸倒引当金

債権の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額を計上しております。

#### (2) 賞与引当金

従業員に対する賞与の支出に備えるため、支給見込額に基づき計上しております。

#### (3) 役員賞与引当金

役員に対する賞与の支出に備えるため、支給見込額に基づき計上しております。

#### (4) 退職給付引当金

従業員の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務及び年金資産の見込額に基づき計上しております。

なお、当事業年度末では、年金資産の額が退職給付債務に未認識数理計算上の差異及び未認識過去勤務費用を加減した額を超えているため、当該超過額を前払年金費用（投資その他の資産）に計上しております。

退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当事業年度末までの期間に帰属させる方法については、給付算定式基準によっております。

数理計算上の差異は、各事業年度の発生時における従業員の平均残存勤務期間による定額法により按分した額を、それぞれ発生の翌事業年度より費用処理しております。

また、過去勤務費用は、その発生時における従業員の平均残存勤務期間による定額法により、費用処理しております。

#### (5) 役員退職慰労引当金

役員に対する退職慰労金の支出に備えるため、内部規程に基づく支給見込額を計上しております。

### 4. 収益及び費用の計上基準

#### 完成工事高及び完成工事原価の計上基準

当事業年度末までの進捗部分について、成果の確実性が認められる工事については工事進行基準（工事の進捗率の見積りは原価比例法）を適用し、その他の工事については工事完成基準を適用しております。

### 5. その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項

#### (1) ヘッジ会計の方法

##### ①ヘッジ会計の方法

繰延ヘッジ処理によっております。

##### ②ヘッジ手段とヘッジ対象

###### (a)ヘッジ手段

為替予約

###### (b)ヘッジ対象

予定取引に係る外貨建売上債権等

##### ③ヘッジ方針

内部規程に基づき、外貨建取引の為替変動リスクを回避する目的で必要な範囲内で為替予約取引を行っております。

##### ④ヘッジの有効性評価の方法

ヘッジ対象と重要な条件が同一であるヘッジ手段を用いているため、ヘッジ開始時およびその後も継続して双方の相場変動が相殺されておりますので、その確認をもって有効性の評価としております。

#### (2) 消費税等の会計処理

消費税等の会計処理は税抜方式によっております。

#### (3) 外貨建の資産又は負債の本邦通貨への換算の基準

外貨建金銭債権債務は、決算日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は損益として処理しております。

(4) 退職給付に係る会計処理

退職給付に係る未認識数理計算上の差異及び未認識過去勤務費用の会計処理方法は、連結財務諸表におけるこれらの会計処理の方法と異なっております。

(表示方法の変更)

(損益計算書関係)

前事業年度において、「特別利益」の「その他」に含めていた「固定資産売却益」は、金額的重要性が増したため、当事業年度より独立掲記することとしております。この表示方法の変更を反映させるため、前事業年度の財務諸表の組替えを行っております。

この結果、前事業年度の損益計算書において、「特別利益」の「その他」に表示していた0百万円は、「固定資産売却益」0百万円として組み替えております。

(追加情報)

(繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針の適用)

「繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針」(企業会計基準適用指針第26号 平成28年3月28日)を当事業年度から適用しております。

(貸借対照表関係)

1 保証債務

従業員の金融機関等からの借入に対して、債務保証を行っております。

	前事業年度 (平成28年12月31日)		当事業年度 (平成29年12月31日)
従業員の借入金(住宅資金)	45百万円	従業員の借入金(住宅資金)	34百万円

※2 関係会社に対する金銭債権及び金銭債務

区分掲記されたもの以外で各科目に含まれているものは、次のとおりであります。

	前事業年度 (平成28年12月31日)	当事業年度 (平成29年12月31日)
短期金銭債権	34,474百万円	29,399百万円
短期金銭債務	6,316百万円	6,985百万円

## (損益計算書関係)

## ※1 関係会社との取引高

	前事業年度 (自 平成28年1月1日 至 平成28年12月31日)	当事業年度 (自 平成29年1月1日 至 平成29年12月31日)
売上高	46,447百万円	42,393百万円
仕入高	18,052百万円	14,705百万円
その他の営業取引高	2,145百万円	2,050百万円
営業取引以外の取引高	52百万円	539百万円

## ※2 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額並びにおおよその割合は、次のとおりであります。

	前事業年度 (自 平成28年1月1日 至 平成28年12月31日)	当事業年度 (自 平成29年1月1日 至 平成29年12月31日)
給与手当及び賞与	1,310百万円	1,353百万円
役員報酬	331百万円	358百万円
賞与引当金繰入額	43百万円	44百万円
役員賞与引当金繰入額	27百万円	32百万円
退職給付費用	156百万円	151百万円
福利厚生費	318百万円	349百万円
支払運賃	167百万円	172百万円
賃借料	34百万円	26百万円
減価償却費	502百万円	489百万円
広告宣伝費	82百万円	99百万円
特許関係費	762百万円	682百万円
研究開発費	4,062百万円	4,593百万円
おおよその割合		
販売費	20.2%	19.0%
一般管理費	79.8%	81.0%

## (有価証券関係)

子会社株式は市場価格がなく時価を把握することが極めて困難と認められるため、子会社株式の時価を記載しておりません。

なお、時価を把握することが極めて困難と認められる子会社株式の貸借対照表計上額は以下のとおりです。

(単位：百万円)

区分	前事業年度 (平成28年12月31日)	当事業年度 (平成29年12月31日)
子会社株式	14,511	14,651

(税効果会計関係)

1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	前事業年度 (平成28年12月31日)	当事業年度 (平成29年12月31日)
(繰延税金資産)		
未払事業税・事業所税	67百万円	89百万円
賞与引当金	81百万円	80百万円
製品評価損	79百万円	69百万円
退職給付引当金	279百万円	一百万円
減価償却超過額	263百万円	288百万円
少額減価償却資産償却超過額	33百万円	29百万円
役員退職慰労引当金	66百万円	66百万円
子会社株式評価損	459百万円	475百万円
投資有価証券評価損	255百万円	264百万円
その他	232百万円	254百万円
繰延税金資産合計	1,818百万円	1,618百万円
(繰延税金負債)		
その他有価証券評価差額金	△79百万円	△141百万円
繰延税金負債合計	△79百万円	△141百万円
繰延税金資産純額	1,739百万円	1,477百万円

2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との差異の原因となった主要な項目別の内訳

	前事業年度 (平成28年12月31日)	当事業年度 (平成29年12月31日)
法定実効税率	32.0%	30.0%
(調整)		
税率変更による期末繰延税金資産の減額修正	1.0%	—
試験研究費税額控除	△6.7%	△7.5%
永久に損金に算入されない項目	1.0%	0.1%
その他	0.9%	△0.8%
税効果会計適用後の法人税等の負担率	28.2%	21.8%

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

## ④【附属明細表】

## 【有形固定資産等明細表】

(単位：百万円)

区分	資産の種類	当期首残高	当期増加額	当期減少額	当期償却額	当期末残高	減価償却累計額
有形固定資産	建物	25,580	288	78	639	25,790	16,266
	構築物	2,235	38	—	42	2,273	1,978
	機械及び装置	20,266	637	726	974	20,176	17,474
	車両運搬具	168	31	28	12	171	137
	工具、器具及び備品	17,751	643	780	754	17,613	14,746
	土地	14,572	38	36	—	14,575	—
	建設仮勘定	264	61	264	—	61	—
	計	80,839	1,738	1,914	2,422	80,664	50,603
無形固定資産	借地権	57	—	—	—	57	—
	ソフトウェア	547	379	4	83	923	144
	施設利用権	21	—	—	1	21	4
	その他	19	—	—	2	19	13
	計	646	379	4	87	1,021	161

(注) 1. 無形固定資産の当期首残高は前期末時点で償却完了となったものを除いております。

2. 当期首残高及び当期末残高は、取得価額により記載しております。

## 【引当金明細表】

(単位：百万円)

科目	当期首残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
賞与引当金	271	269	271	269
役員賞与引当金	27	32	27	32
役員退職慰労引当金	230	—	8	221

(2) 【主な資産及び負債の内容】

連結財務諸表を作成しているため、記載を省略しております。

(3) 【その他】

該当事項はありません。

## 第6【提出会社の株式事務の概要】

事業年度	1月1日から12月31日まで
定時株主総会	3月中
基準日	12月31日
剰余金の配当の基準日	6月30日 12月31日
1単元の株式数	100株
単元未満株式の買取り	
取扱場所	(特別口座) 東京都中央区八重洲一丁目2番1号 みずほ信託銀行株式会社 本店証券代行部
株主名簿管理人	(特別口座) 東京都中央区八重洲一丁目2番1号 みずほ信託銀行株式会社
取次所	—
買取手数料	株式の売買の委託に係る手数料相当額として別途定める金額
公告掲載方法	当社の公告方法は、電子公告としております。 ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載して行います。 当社の公告掲載URLは次のとおりであります。 <a href="http://www.canon-elec.co.jp/">http://www.canon-elec.co.jp/</a>
株主に対する特典	該当事項はありません。

(注) 当社定款の定めにより、単元未満株主は、会社法第189条第2項各号に掲げる権利並びに単元未満株式の売渡し請求をする権利以外の権利を有しておりません。



## 第7【提出会社の参考情報】

### 1 【提出会社の親会社等の情報】

当社には、金融商品取引法第24条の7第1項に規定する親会社等はありません。

### 2 【その他の参考情報】

当事業年度の開始日から有価証券報告書提出日までの間に、次の書類を提出しております。

#### (1) 有価証券報告書及びその添付書類並びに有価証券報告書の確認書

事業年度 第78期(自平成28年1月1日 至平成28年12月31日)平成29年3月30日関東財務局長に提出。

#### (2) 内部統制報告書及びその添付書類

事業年度 第78期(自平成28年1月1日 至平成28年12月31日)平成29年3月30日関東財務局長に提出。

#### (3) 四半期報告書及び四半期報告書の確認書

第79期第1四半期(自平成29年1月1日 至平成29年3月31日)平成29年5月12日関東財務局長に提出。

第79期第2四半期(自平成29年4月1日 至平成29年6月30日)平成29年8月10日関東財務局長に提出。

第79期第3四半期(自平成29年7月1日 至平成29年9月30日)平成29年11月13日関東財務局長に提出。

#### (4) 臨時報告書

企業内容等の開示に関する内閣府令第19条第2項第9号の2(株主総会における議決権行使の結果)の規定に基づく臨時報告書

平成29年3月30日関東財務局長に提出。

## 第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

# 独立監査人の監査報告書及び内部統制監査報告書

平成30年3月27日

キヤノン電子株式会社  
取締役会 御中

## 新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 志 村 さ や か ㊞

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 香 山 良 ㊞

### <財務諸表監査>

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられているキヤノン電子株式会社の平成29年1月1日から平成29年12月31日までの連結会計年度の連結財務諸表、すなわち、連結貸借対照表、連結損益計算書、連結包括利益計算書、連結株主資本等変動計算書、連結キャッシュ・フロー計算書、連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項、その他の注記及び連結附属明細表について監査を行った。

### 連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から連結財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に連結財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、連結財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による連結財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、連結財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての連結財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

### 監査意見

当監査法人は、上記の連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、キヤノン電子株式会社及び連結子会社の平成29年12月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する連結会計年度の経営成績及びキャッシュ・フローの状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

#### <内部統制監査>

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第2項の規定に基づく監査証明を行うため、キャノン電子株式会社の平成29年12月31日現在の内部統制報告書について監査を行った。

#### 内部統制報告書に対する経営者の責任

経営者の責任は、財務報告に係る内部統制を整備及び運用し、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して内部統制報告書を作成し適正に表示することにある。

なお、財務報告に係る内部統制により財務報告の虚偽の記載を完全には防止又は発見することができない可能性がある。

#### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した内部統制監査に基づいて、独立の立場から内部統制報告書に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の監査の基準に準拠して内部統制監査を行った。財務報告に係る内部統制の監査の基準は、当監査法人に内部統制報告書に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき内部統制監査を実施することを求めている。

内部統制監査においては、内部統制報告書における財務報告に係る内部統制の評価結果について監査証拠を入手するための手続が実施される。内部統制監査の監査手続は、当監査法人の判断により、財務報告の信頼性に及ぼす影響の重要性に基づいて選択及び適用される。また、内部統制監査には、財務報告に係る内部統制の評価範囲、評価手続及び評価結果について経営者が行った記載を含め、全体としての内部統制報告書の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

#### 監査意見

当監査法人は、キャノン電子株式会社が平成29年12月31日現在の財務報告に係る内部統制は有効であると表示した上記の内部統制報告書が、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して、財務報告に係る内部統制の評価結果について、すべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

#### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

- 
- ※1 上記は監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(有価証券報告書提出会社)が別途保管しております。
- 2 XBR Lデータは監査の対象には含まれていません。

# 独立監査人の監査報告書

平成30年3月27日

キヤノン電子株式会社  
取締役会 御中

## 新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 志 村 さ や か ㊞

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 香 山 良 ㊞

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられているキヤノン電子株式会社の平成29年1月1日から平成29年12月31日までの第79期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書、重要な会計方針、その他の注記及び附属明細表について監査を行った。

### 財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

### 監査意見

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、キヤノン電子株式会社の平成29年12月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する事業年度の経営成績をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

- 
- ※1 上記は監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(有価証券報告書提出会社)が別途保管しております。  
2 XBR Lデータは監査の対象には含まれていません。